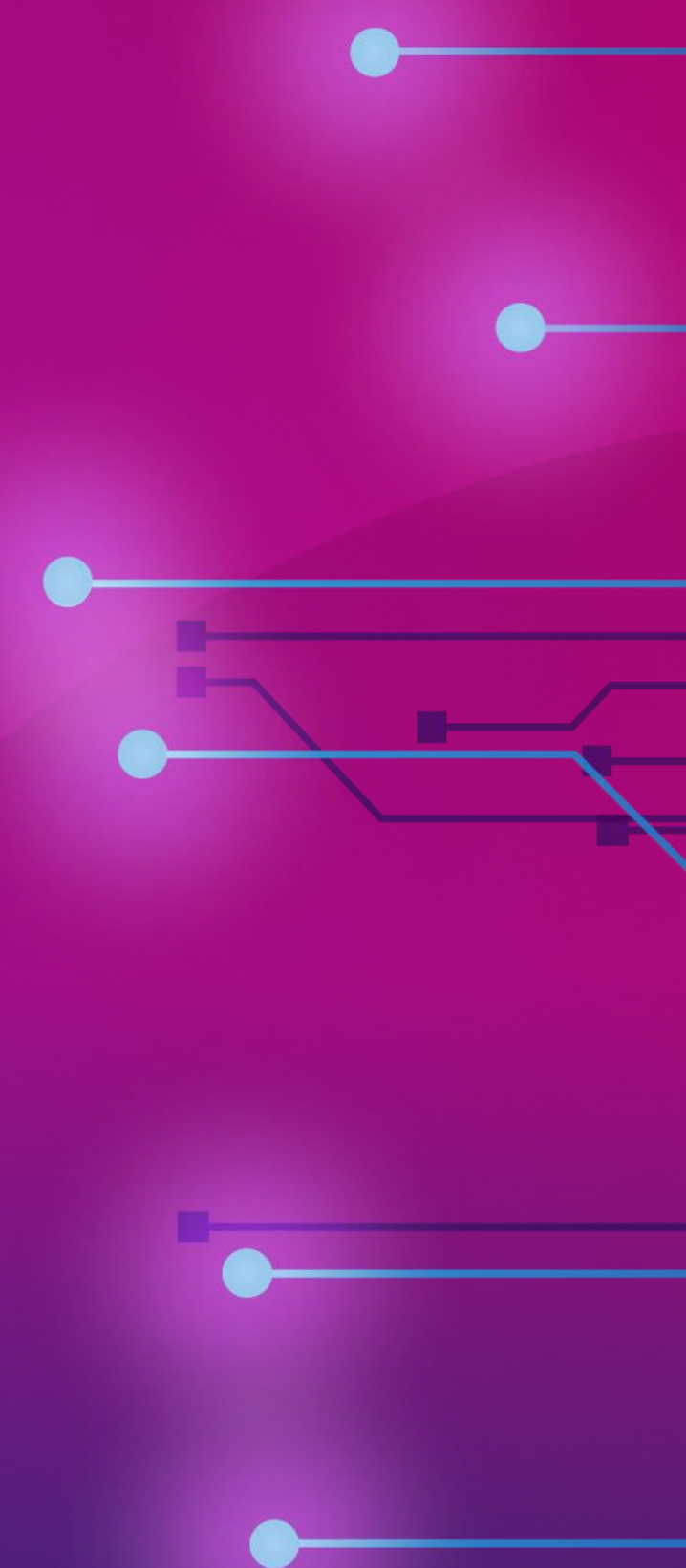




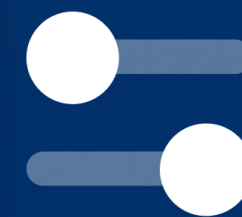
企業における生成AI活用に関する意識調査



Agenda



調査概要



結果のサマリー



Box エバンジェリストによる解説



調査結果詳細

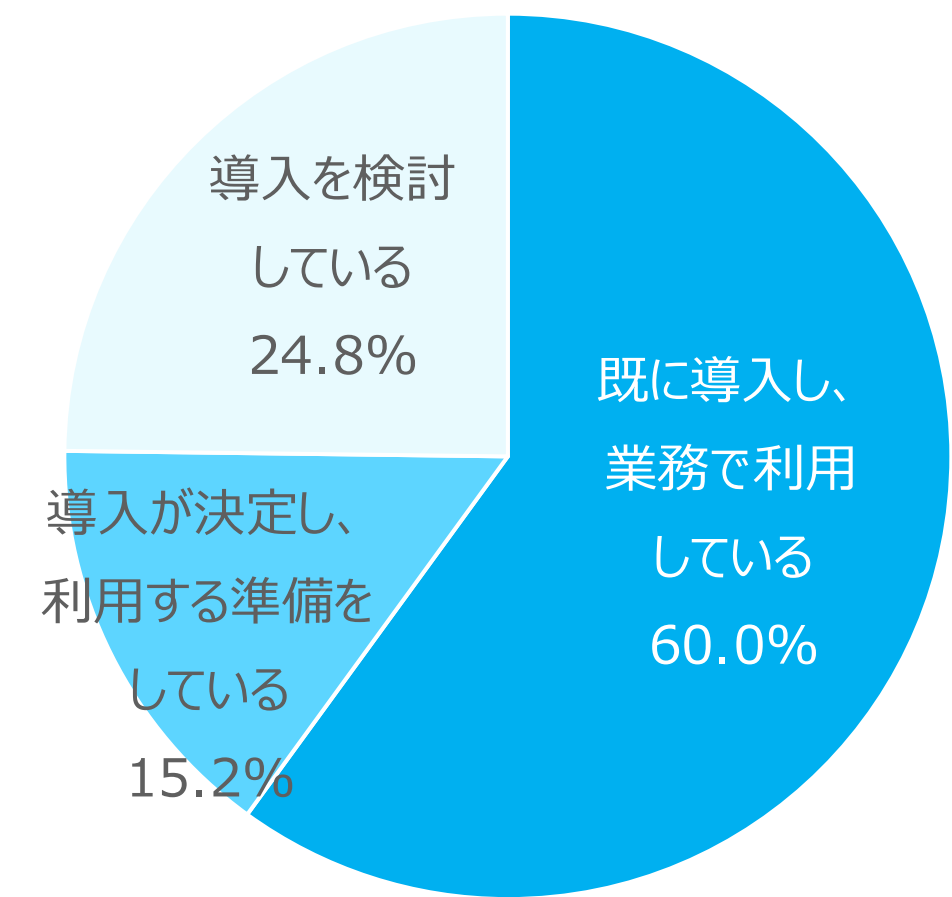


Box AI のご紹介

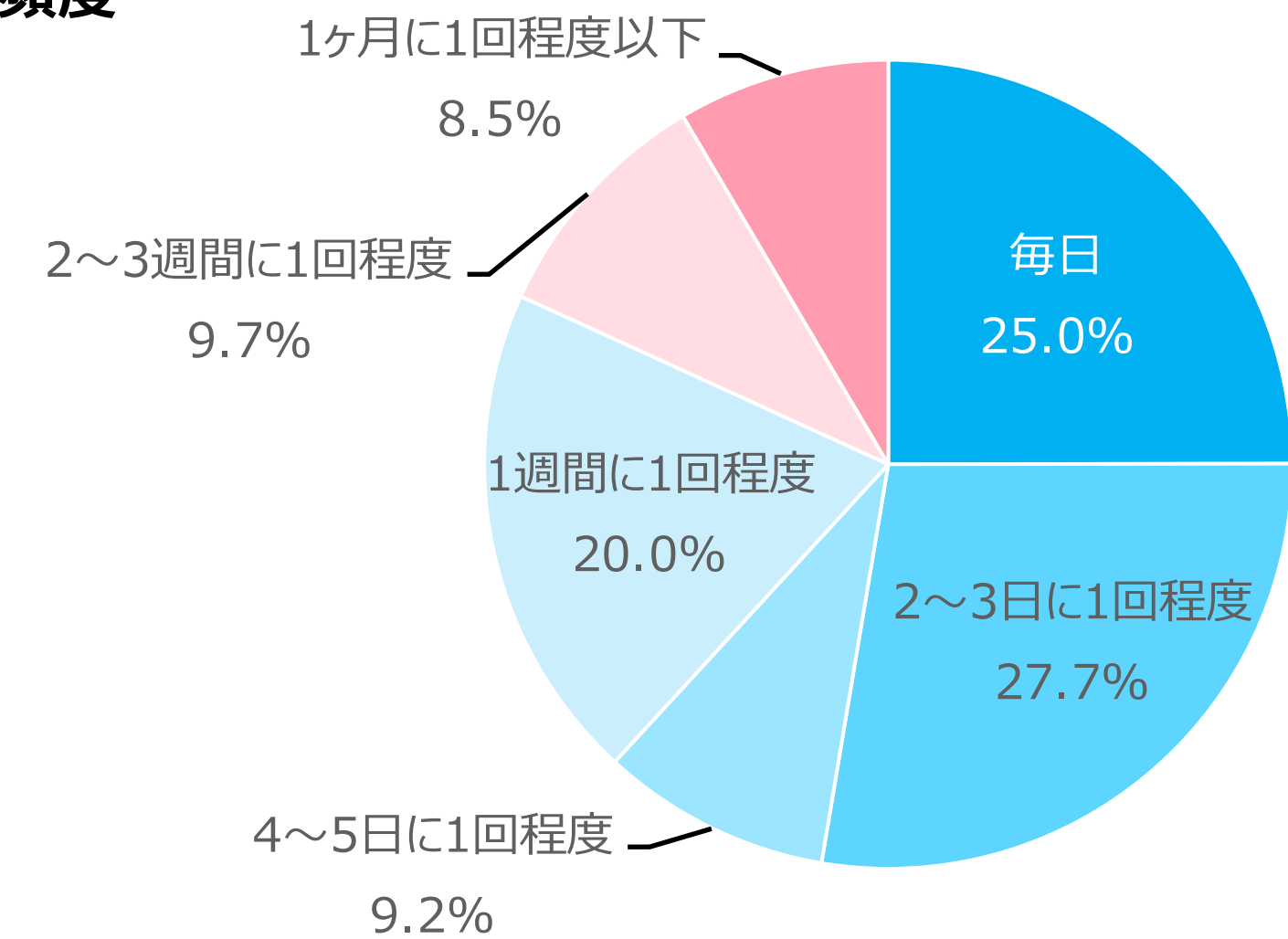
調査概要

調査対象エリア	全国47都道府県										
調査対象者	<div><div></div><div>■ 共通の回答者条件</div><div><div>・ 年齢：20－69歳の男女</div><div>・ 職業：会社員・管理職の方</div><div>・ 勤務先で生成AI導入・利用状況について、以下のいずれかにあてはまる</div><div>「既に導入し、業務で利用している」</div><div>「導入が決定し、利用する準備をしている」</div><div>「導入を検討している」</div></div></div>										
回収サンプル数	<div>本調査の割付3グループの回収サンプルは以下である。</div> <table><tr><td></td><td>割付1</td><td>割付2</td><td>割付3</td><td>合計</td></tr><tr><td>サンプル数</td><td>400</td><td>200</td><td>400</td><td>1,000</td></tr></table>		割付1	割付2	割付3	合計	サンプル数	400	200	400	1,000
	割付1	割付2	割付3	合計							
サンプル数	400	200	400	1,000							
調査期間	2024年10月4日（金）～2024年10月7日（月）										
調査手法	インターネット定量調査										
調査実施機関	株式会社クロス・マーケティング										

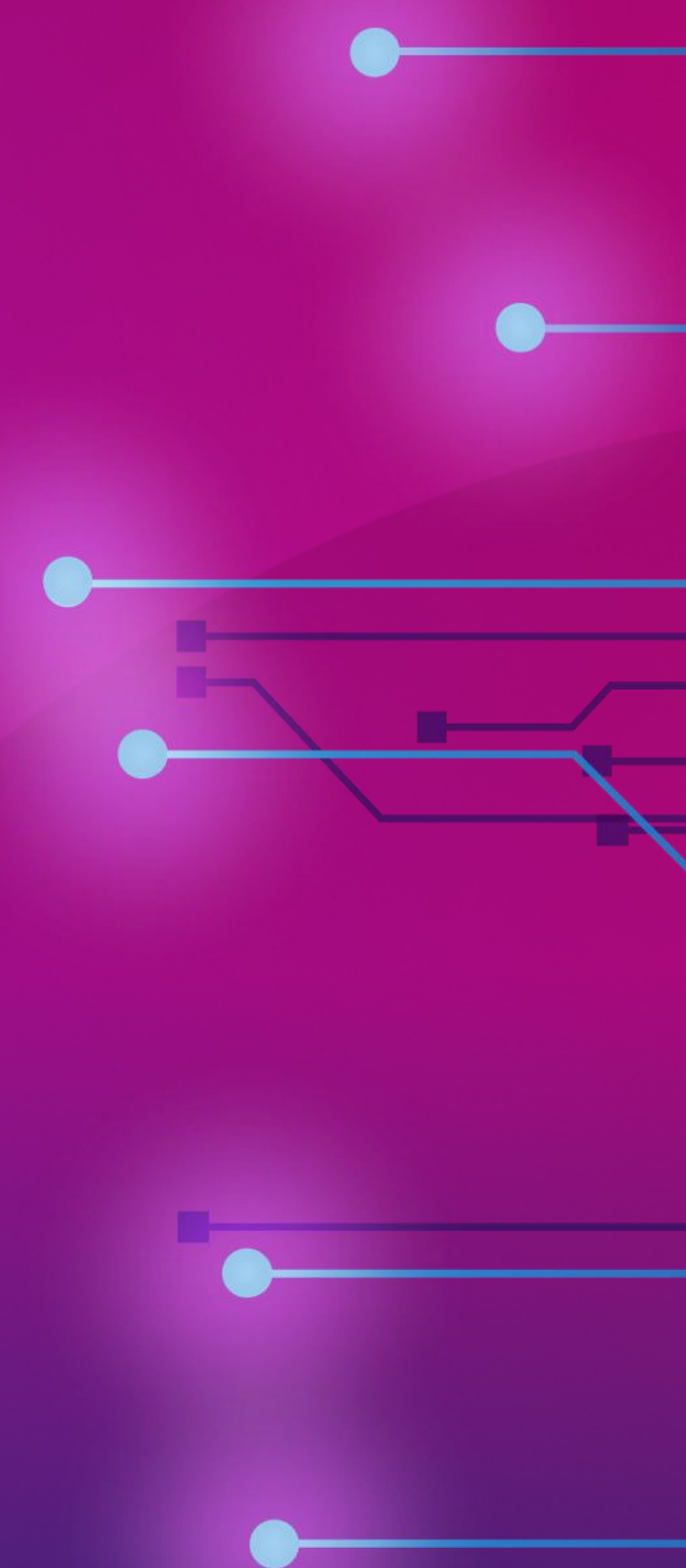
導入状況



利用頻度



結果のサマリー



サマリー

数字で見る生成AIの現状

生成AIを導入・管理する上で
課題や不安がある



95%

生成AIを導入する上で
重視する点



1位
セキュリティ

生成AIの導入予算
(ユーザーあたりの月額)

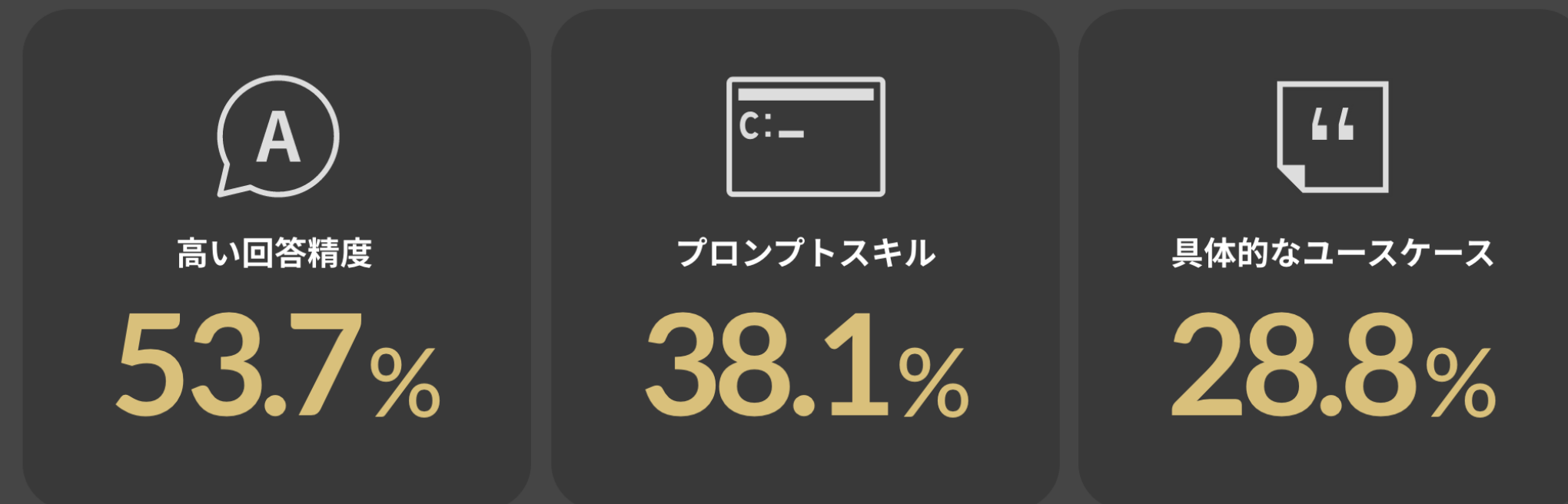


想定
予算 2,000 円
実質
価格 4,000 円

サマリー

今後の生成AIの活用について 必要なことはなんだと思いますか？

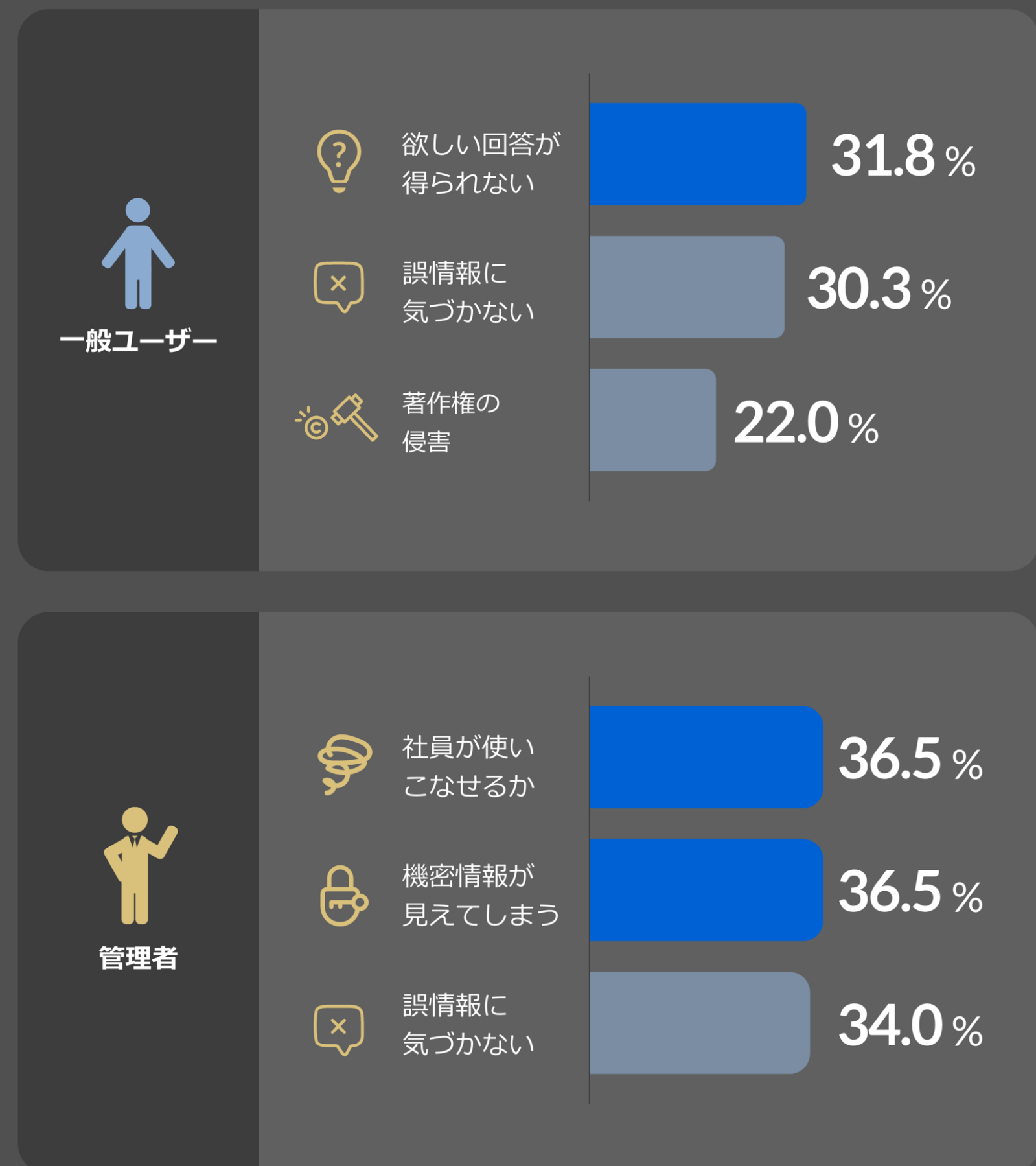
一般ユーザー



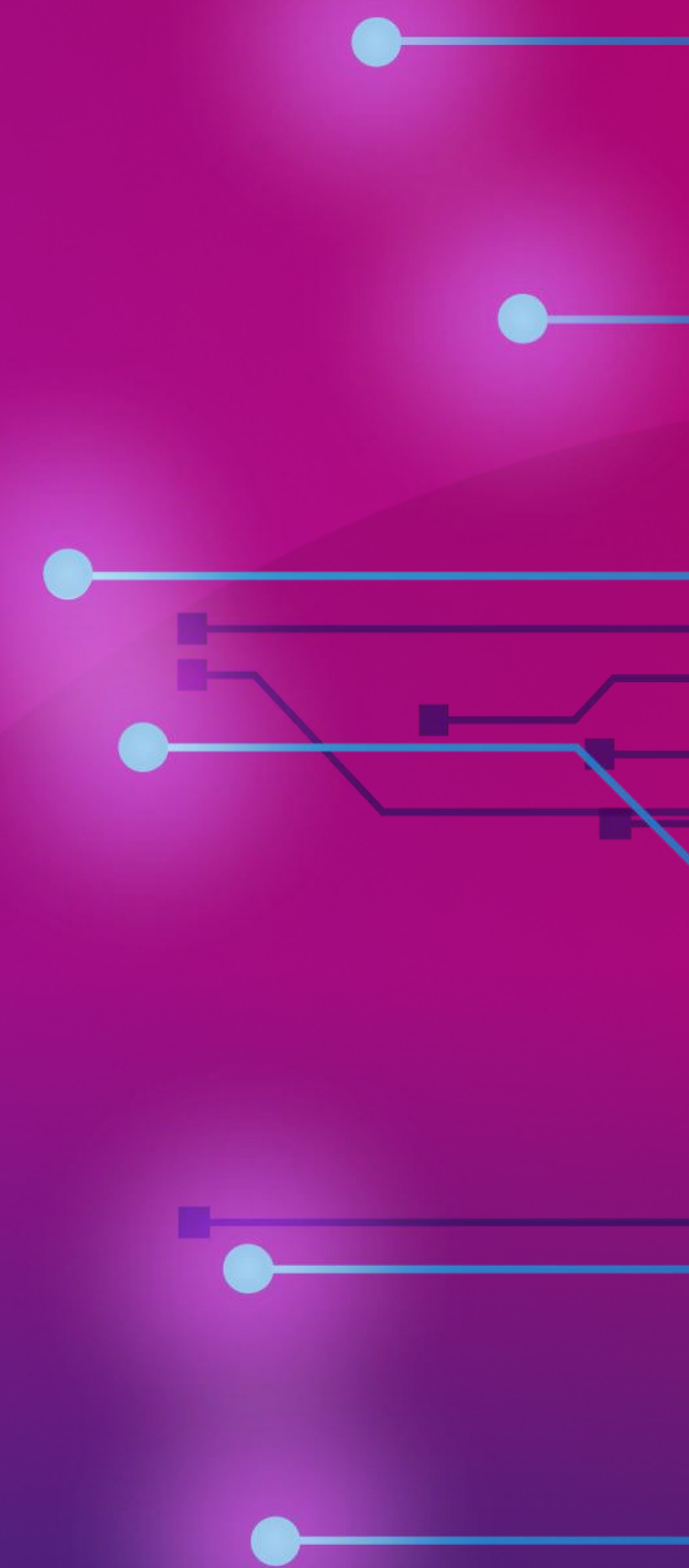
管理者



あなたは生成AIを利用して、 課題や不安に感じることはありますか？



Box エバンジェリストによる解説

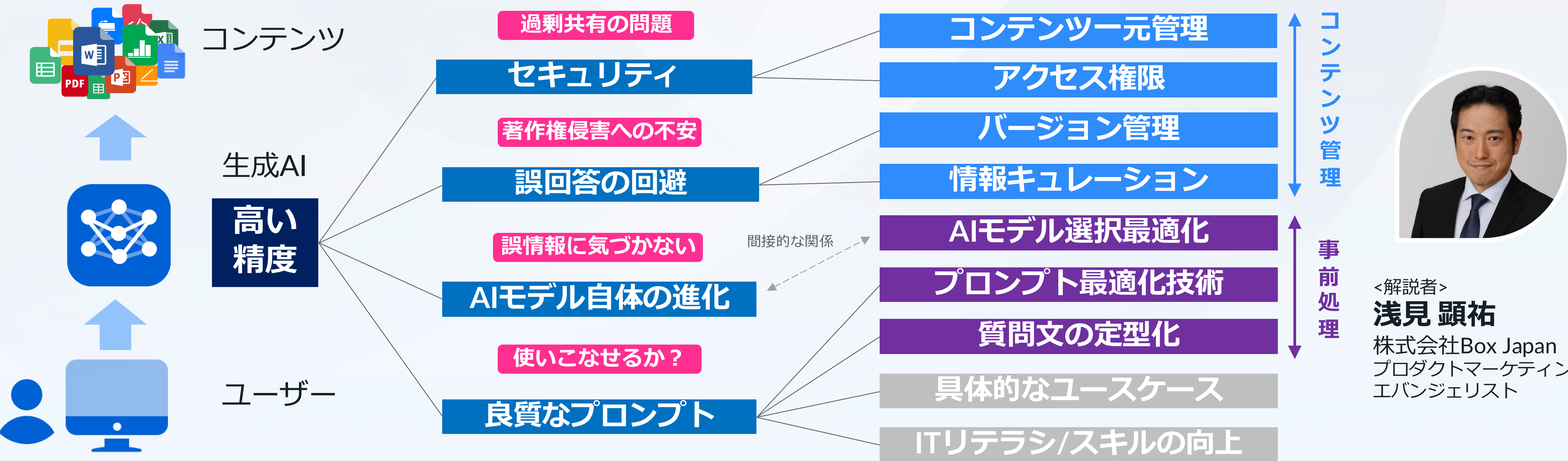


アンケート結果より～より高精度な回答が求められる生成AI

容易に使いこなすことができ、**正確な情報を精度高く**返してくれる——そんな生成AIに大きな期待が寄せられていることが、アンケートの結果から読み取れます。一方で多くの方が、機密情報の過剰共有をはじめとするセキュリティ面でのリスクを感じており、「精度」という言葉には「**正しいアクセス権限に基づく**」という意味も含まれていることがわかります。また、実際の利用料金が想定予算よりも上回る傾向が見られることから、生成AIサービスを選定する際には自社の要件と利用料金とのバランスの見極めが課題となることが予想されます。そして、生成AI活用には「ITリテラシー」や「プロンプトスキル」が必要という回答が多いことから、人間の仕事を省力化するためのAI活用のはずが、AIを使うことで逆に覚えなければならない事が増えてしまっているケースも少なくないことが想像できます。

生成AIの「高い精度」を実現するためには何が必要か——因数分解した図が下記です。精度を上げるには、AIモデル自体の進化が必要と思われがちですが、AIの情報源となる**コンテンツを管理しAIに正しい情報を読ませる**ことの方が、実は重要です。また、プロンプトに情報を付加する*ことでも精度は向上できるため、AIを実行する前のアプリケーション側での**事前処理**も非常に重要です。

* 一般的にこの処理は「RAG(Retrieval-Augmented Generation)」と呼ばれます



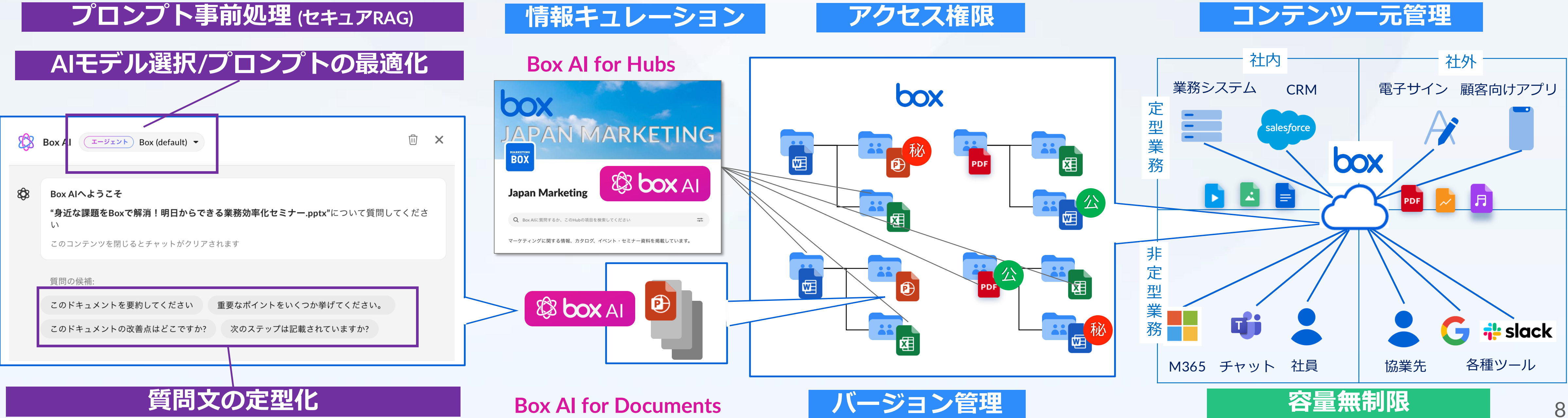
<解説者>
浅見 顕祐
株式会社Box Japan
プロダクトマーケティング部
エバンジェリスト

Box AIのご紹介 ～ コンテンツ管理と事前処理により高精度の回答を実現

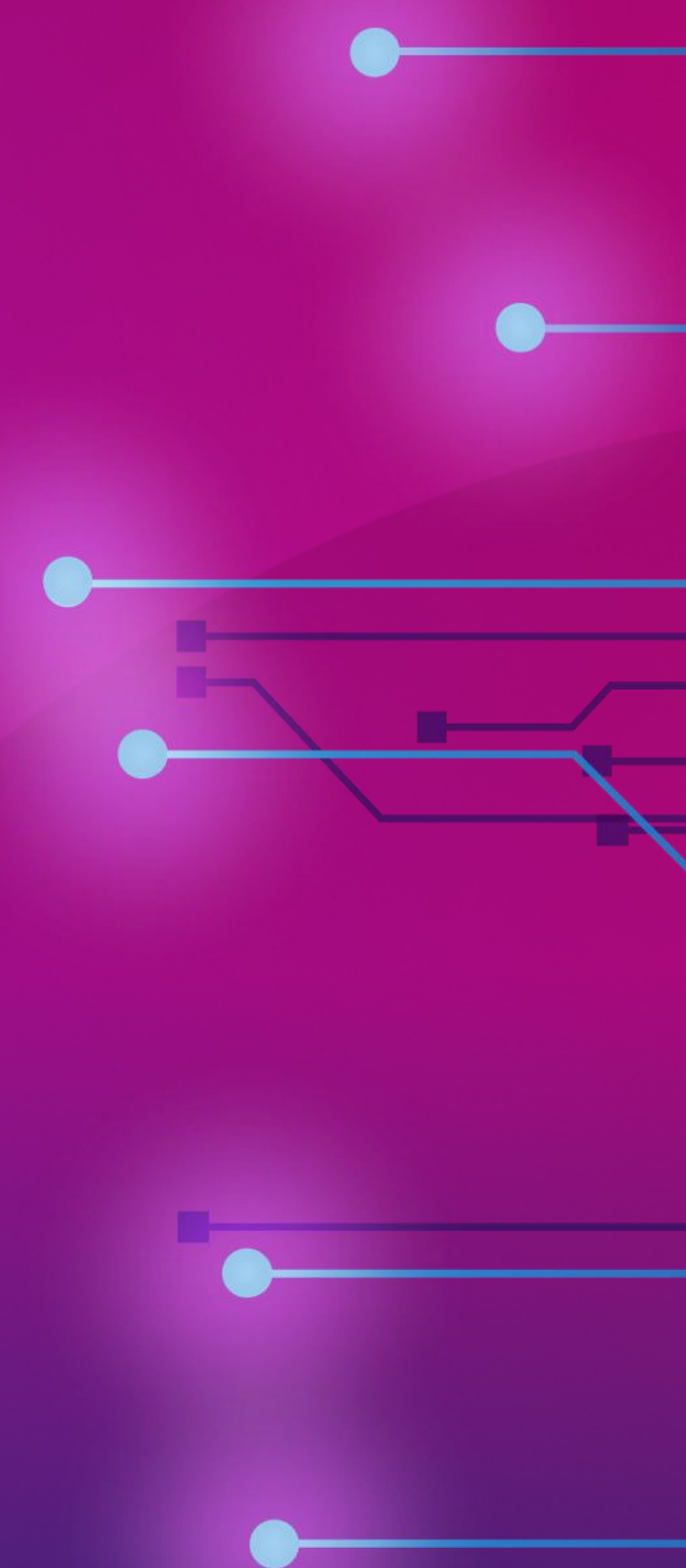
Boxの強みは、**コンテンツ管理とAI機能が一体化**されていて、精度高くAIを活用できる点にあります。BoxのAI機能であるBoxAIには、セキュアRAGをはじめとする**事前処理**の機能が提供されているため、ユーザーがプロンプトを駆使してAIへの指示や質問を詳細化せずとも、良質な回答をAIから引き出せます。ユーザーインターフェースもシンプルで、誰でも簡単に使いこなすことができます。

下図を右から見ていきましょう。Boxは、1,500種類以上の他社サービスとの接続や、APIによる業務システムの統合が柔軟に行えるので、コンテンツをBoxに寄せて**一元管理**できます。**容量無制限**の課金体系であり、ファイルの**バージョン管理**やアーカイブも無制限で行えます。そして「B2B専用」のBoxはセキュリティに非常に強く、コンテンツへの**アクセス権限**をユーザーごとに細かく設定できます。

Box AIに質問や指示を投げることで、コンテンツの要約、内容に関する質疑応答、ドラフト作成などが行えますが、よくある**質問文は定型化**されているので、初心者でもボタンをクリックするだけでAIを活用できます。また、Box AIには、質問に関連する文だけを抽出してプロンプトに追加する**セキュアRAG**の機能があり、より高い精度でAIに回答させることができます。Box AI Studioを使えば、カスタムAIエージェントを作成し、**AIモデル選択やプロンプトを最適化**できます。Box AI for Hubsを使えば、正式文書だけを選別する「**キュレーション**」を予め実施した上で、複数コンテンツを検索/要約する目的でAIを利用できるため、誤回答リスクを低減できます。



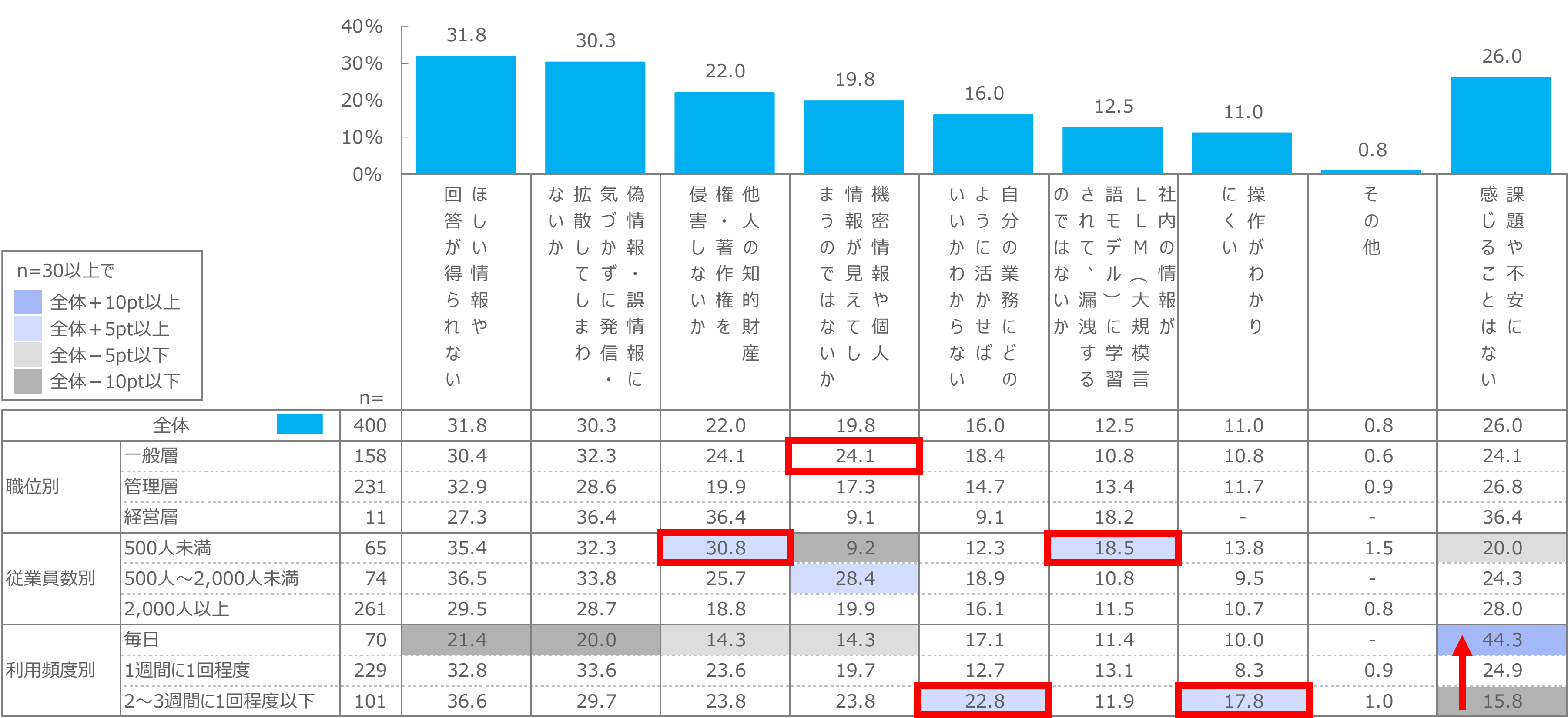
調査結果詳細



生成AIの課題や不安（一般ユーザー側）

ユーザー全体における生成AIの課題や不安は、「ほしい情報や回答が得られない」との課題が31.8%、「偽情報・誤情報に気づかず発信・拡散してしまわないか」との不安が30.3%であり、以下をやや引き離している。

- 職位別の【一般層】では、「機密情報や個人情報が見えてしまうのではないかな」との不安が24.1%で、【管理層】より7ptほど高い。
- 従業員数別の【500人未満】では、「他人の知的財産権・著作権を侵害しないか」「社内の情報がLLMに学習されて、漏洩するのではないかな」といった不安が、従業員数が多い層よりも高いのがみてとれた。
- 利用頻度別が少ない【2～3週間に1回程度以下】では、「自分の業務にどのように活かせばいいかわからない」「操作がわかりにくい」といった課題が頻度が多い層より高い。また頻度が多い層ほど、「課題や不安に感じることはない」と答えた割合は多くなる。

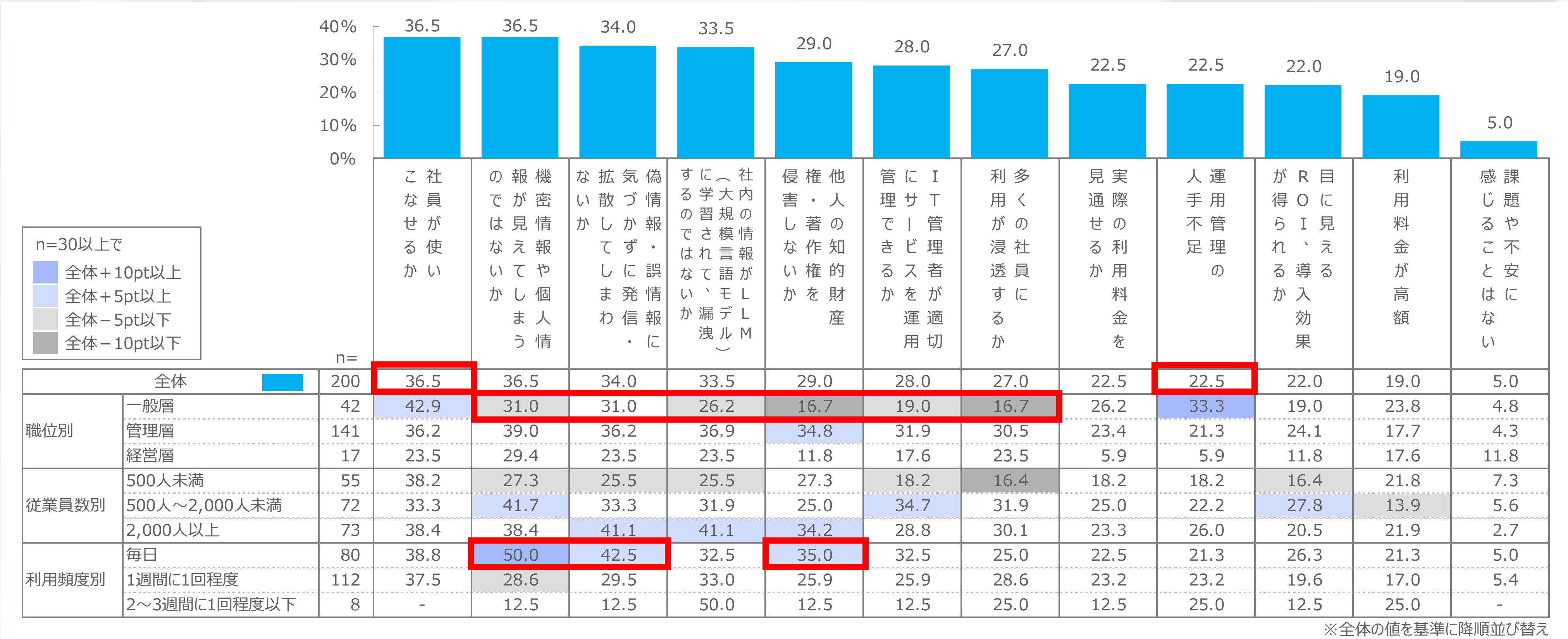


※全体の値を基準に降順並び替え

生成AIの課題や不安（導入・運用側）

導入・運用者全体における生成AIの課題や不安は、「社員が使いこなせるか」と「機密情報や個人情報が見えてしまうのではないか」が36.5%で同率。次いで「偽情報・誤情報に気づかずに発信・拡散してしまわないか」が34.0%、「社内の情報がLLMに学習されて、漏洩するのではないか」が33.5%と続き、課題や不安の上位4項目といえる。

- 職位別の【一般層】では「社員が使いこなせるか」が42.9%と高く、【管理層】より7ptほど高い。その他の項目においては、【一般層】より【管理層】の方が高く、特に「他人の知的財産権・著作権を侵害しないか」「多くの社員に利用が浸透するか」で差が大きく、「社内の情報がLLMに学習されて、漏洩するのではないか」「IT管理者が適切にサービスを運用管理できるか」においても10pt以上高い。
- 従業員数別の【500人未満】では従業員数が多い層と比べて、全体的に課題や不安の度合いが低くなる傾向がみられた。
- 利用頻度別が【毎日】では、「機密情報や個人情報が見えてしまうのではないか」が50.0%でトップ不安、「偽情報・誤情報に気づかずに発信・拡散してしまわないか」「他人の知的財産権・著作権を侵害しないか」との不安も高く、いずれも他の層との差が大きい。



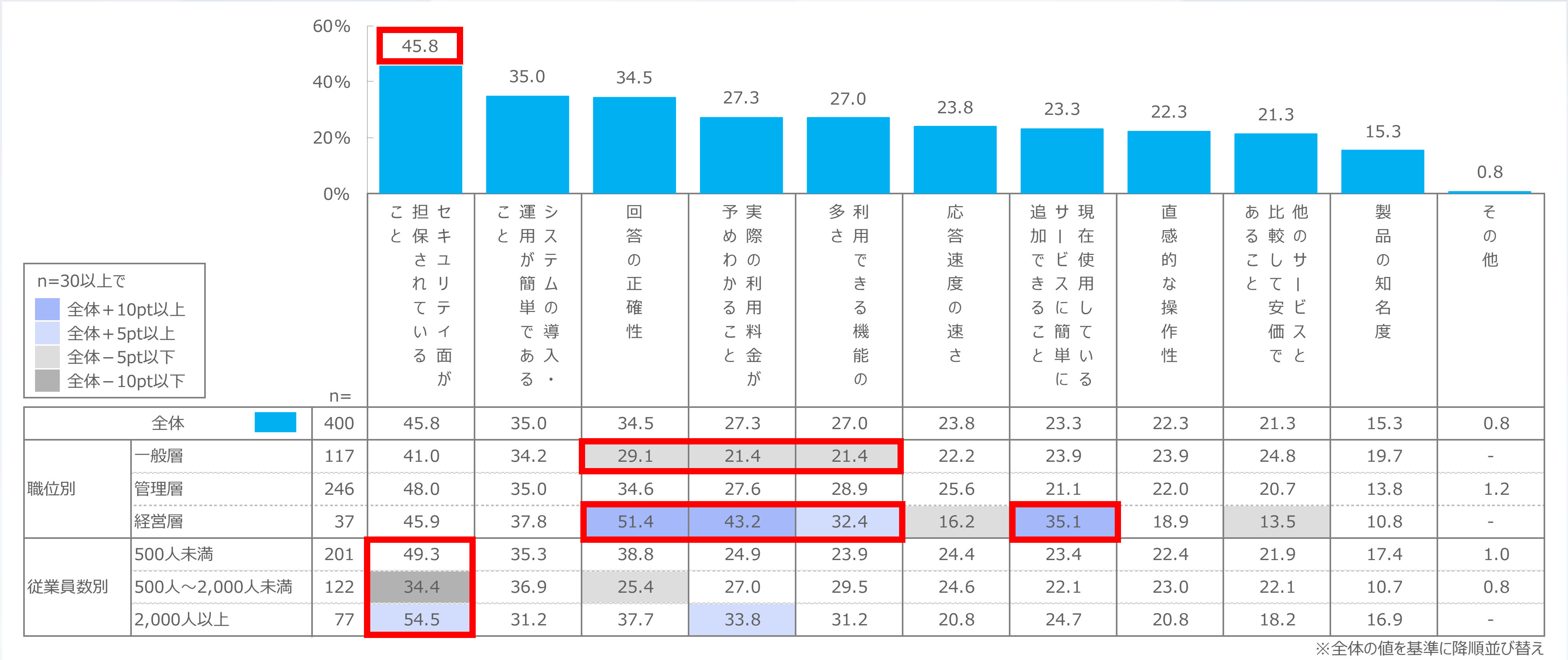
※全体の値を基準に降順並び替え

導入を決定するうえで重視する点

導入検討企業の導入関係者全体における生成AI導入決定での重視点は、「セキュリティ面が担保されていること」が45.8%と、2位以下に11pt差をつけてトップ。

2位、3位は「システムの導入・運用が簡単であること」と「回答の正確性」の順で、ほぼ同率で並んでいる。

- 職位別の【一般層】では、「回答の正確性」「実際の利用料金が予めわかること」「利用できる機能の多さ」の3項目が他の層よりも低い。逆に【経営層】では「回答の正確性」が51.4%でトップ重視点であった。次いで「実際の利用料金が予めわかること」が43.2%、加えて「利用できる機能の多さ」「現在使用しているサービスに簡単に追加できること」で、他の層よりも高くなっている。
- 従業員数別の【500人～2,000人未満】では「セキュリティ面が担保されていること」が34.4%と低く、【500人未満】と比較すると15pt差、【2,000人以上】と比較すると20ptの大差であった。

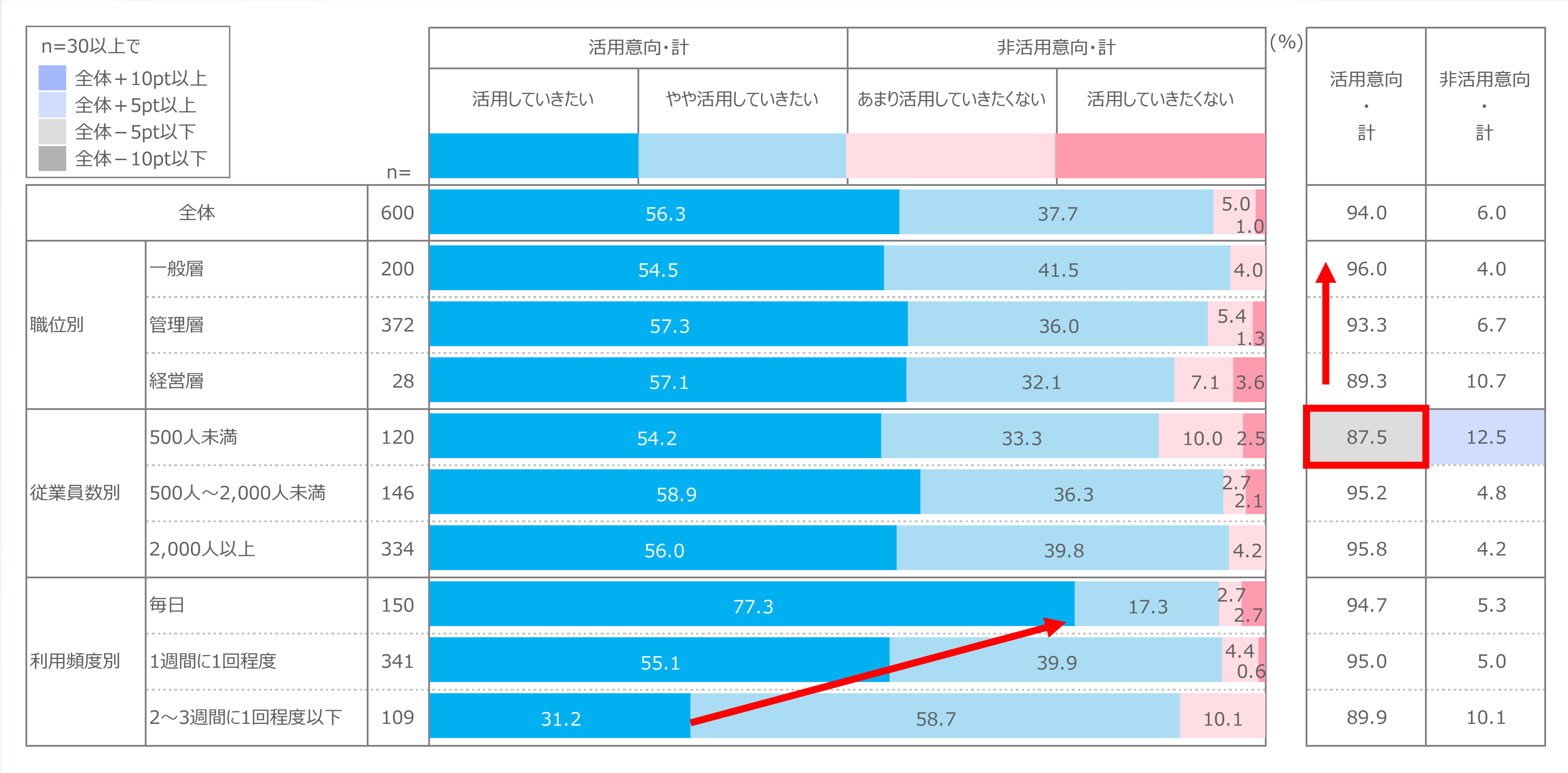


※全体の値を基準に降順並び替え

今後の生成AI利活用意向

導入済企業(ユーザー及び導入・運用者)全体における生成AIの今後利活用意向は、「活用していきたい」56.3%+「やや活用していきたい」37.7%、合わせて94.0%が活用意向を示した。

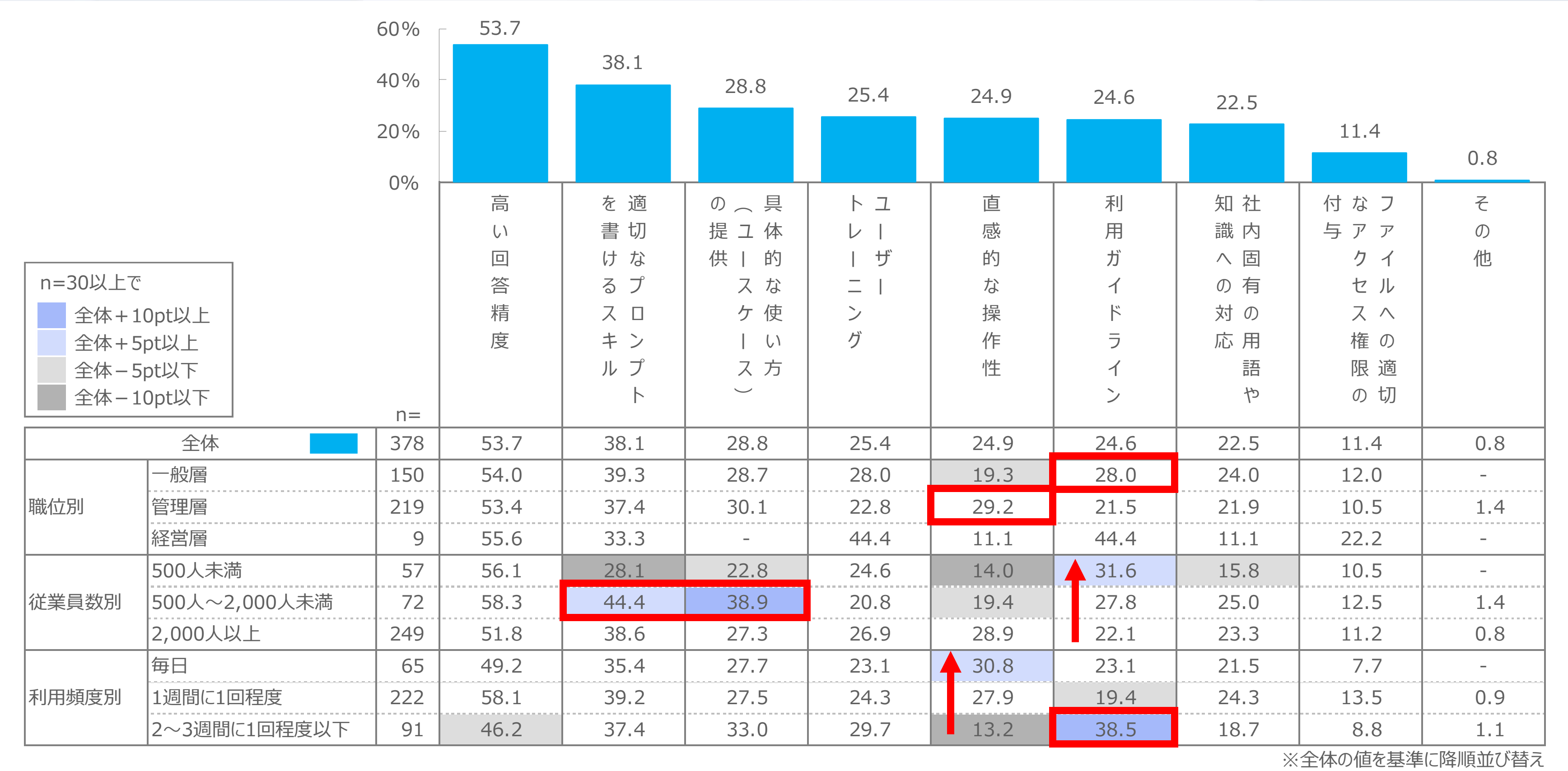
- 職位別では【経営層】より【管理層】の方が、【管理層】より【一般層】の方が活用意向が高くなる。
- 従業員数別の【500人未満】では、従業員数が多い層より活用意向が低い。
- 利用頻度別が【毎日】の人は、「活用していきたい」が77.3%と高く8割に迫る。対して、頻度が少ない【2～3週間に1回程度以下】では3割程度。



活用を促進するための手段（ユーザー側）

ユーザー全体における生成AIの活用促進手段は、「高い回答精度」が53.7%と突出している。次いで「適切なプロンプトを書けるスキル」が38.1%、以下「具体的な使い方の提供」が28.8%、「ユーザートレーニング」が25.4%で続く。

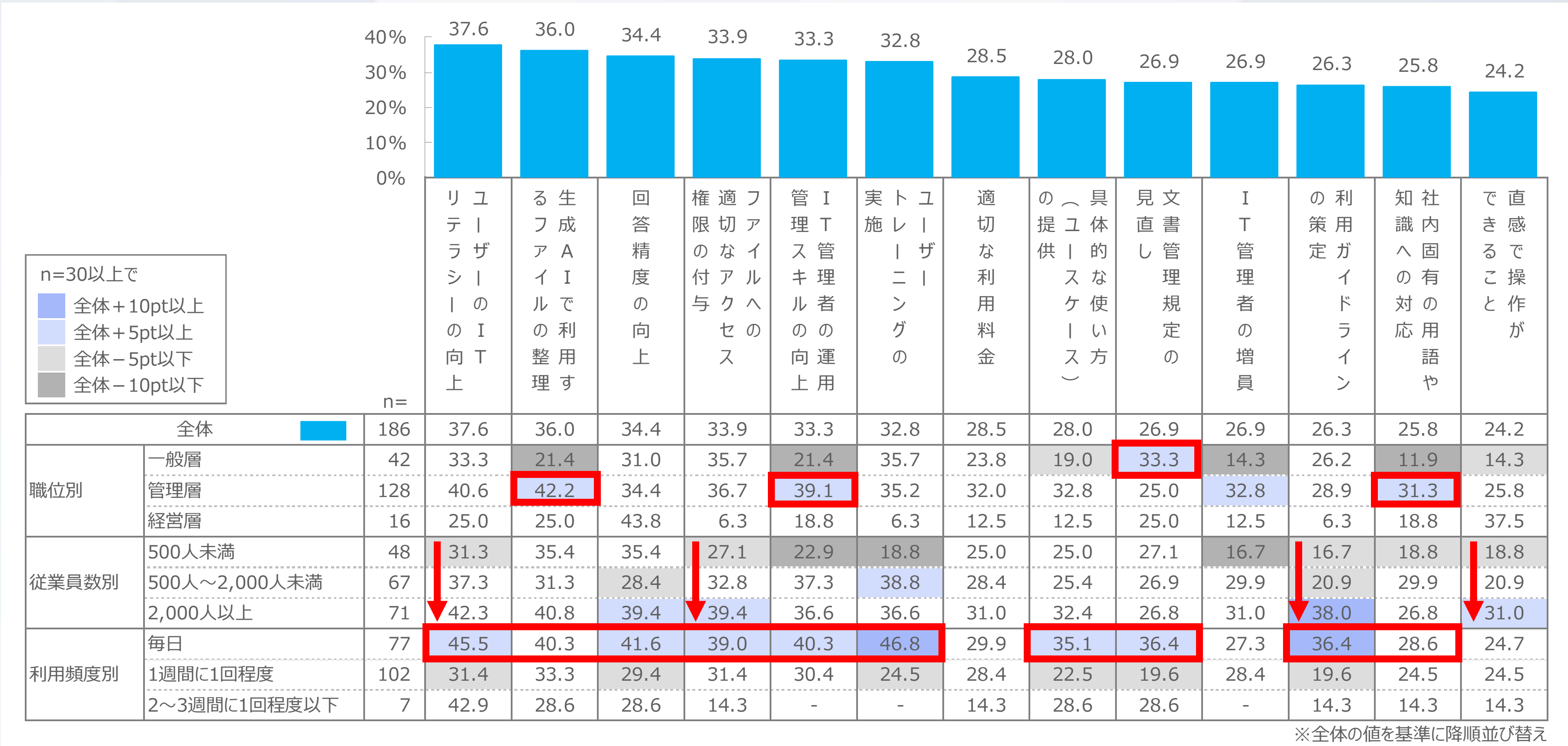
- 職位別の【管理層】では「直観的な操作性」が29.2%で、【一般層】より10ptほど高い。逆に【一般層】では「利用ガイドライン」が28.0%で、【管理層】より7pt高い。
- 従業員数別の【500人～2,000人未満】では、「適切なプロンプトを書けるスキル」、「具体的な使い方の提供」が他の層より高い。また従業員が少ない層ほど「利用ガイドライン」の必要性が高くなっている。
- 利用頻度別が少ない【2～3週間に1回程度以下】では「利用ガイドライン」が38.5%と、頻度が多い層より15pt以上高い。一方、頻度が多い層ほど「直観的な操作性」では高くなっている。



活用を促進するための手段（導入・運用側）

導入・運用者全体における生成AIの活用促進手段は、上位6項目が3割台。「ユーザーのITリテラシーの向上」が37.6%、「生成AIで利用するファイルの整理」が36.0%で3割後半。以下「回答精度の向上」「ファイルへの適切なアクセス権限の付与」「IT管理者の運用管理スキルの向上」「ユーザートレーニングの実施」と続く。

- 職位別の【管理層】では「生成AIで利用するファイルの整理」「IT管理者の運用管理スキルの向上」「社内固有の用語や知識への対応」で、いずれも【一般層】より18pt～20ptほど高い。逆に【一般層】では「文書管理規定の見直し」が33.3%と、【管理層】より8pt高い。
- 従業員数別では、全体的に従業員数が多い層ほど割合が高くなる傾向がみられ、特に「利用ガイドラインの策定」では22ptほどの差がみられる。
- 利用頻度別が【毎日】の人では、ほとんどの項目で頻度が他の層に比べて割合が高く、特に「ユーザートレーニングの実施」「利用ガイドラインの策定」で差が大きい。

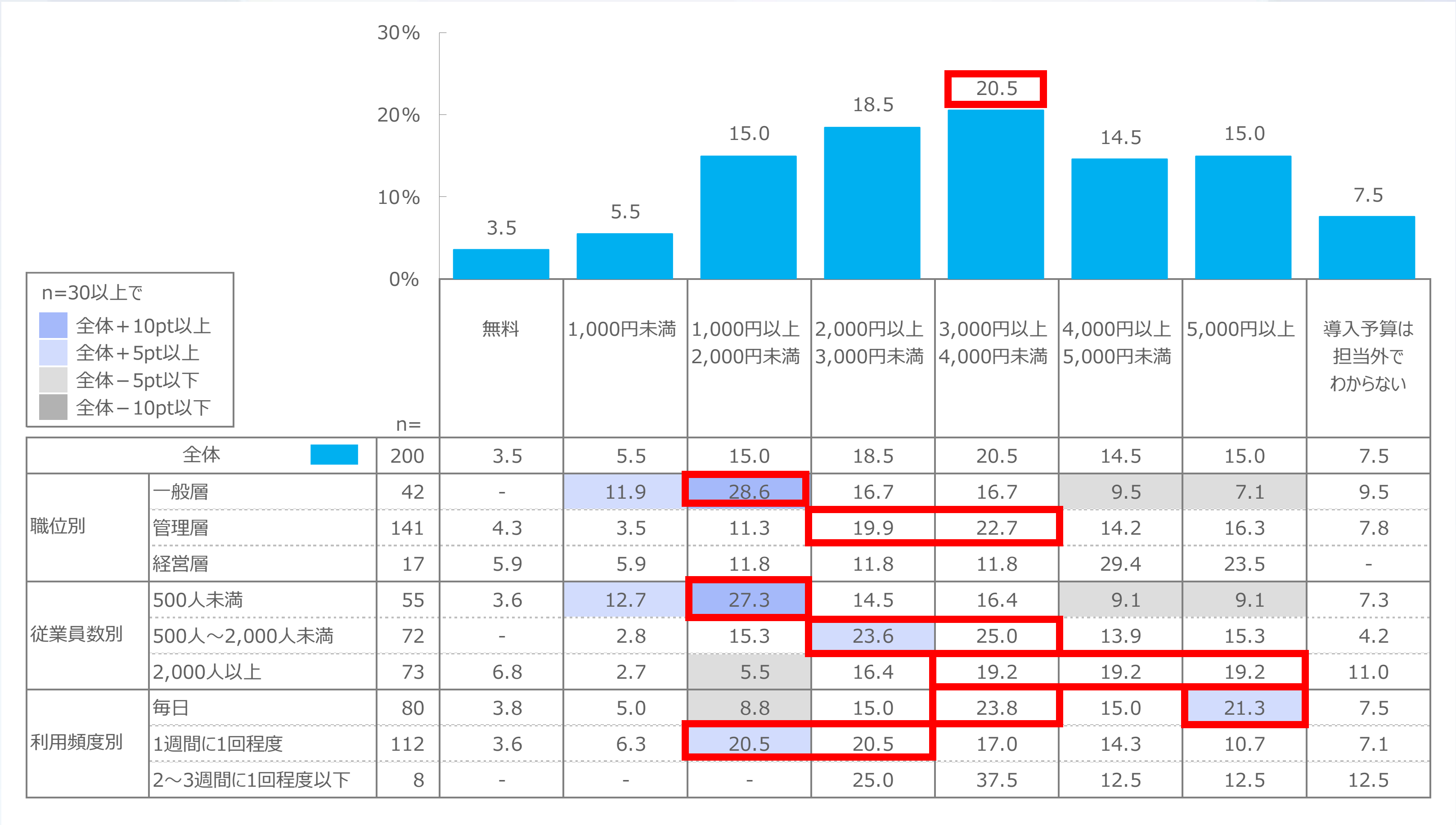


※全体の値を基準に降順並び替え

導入予算（導入済企業）

導入・運用者全体における生成AIの導入予算は、「3,000円以上4,000円未満」が20.5%でボリュームゾーン。

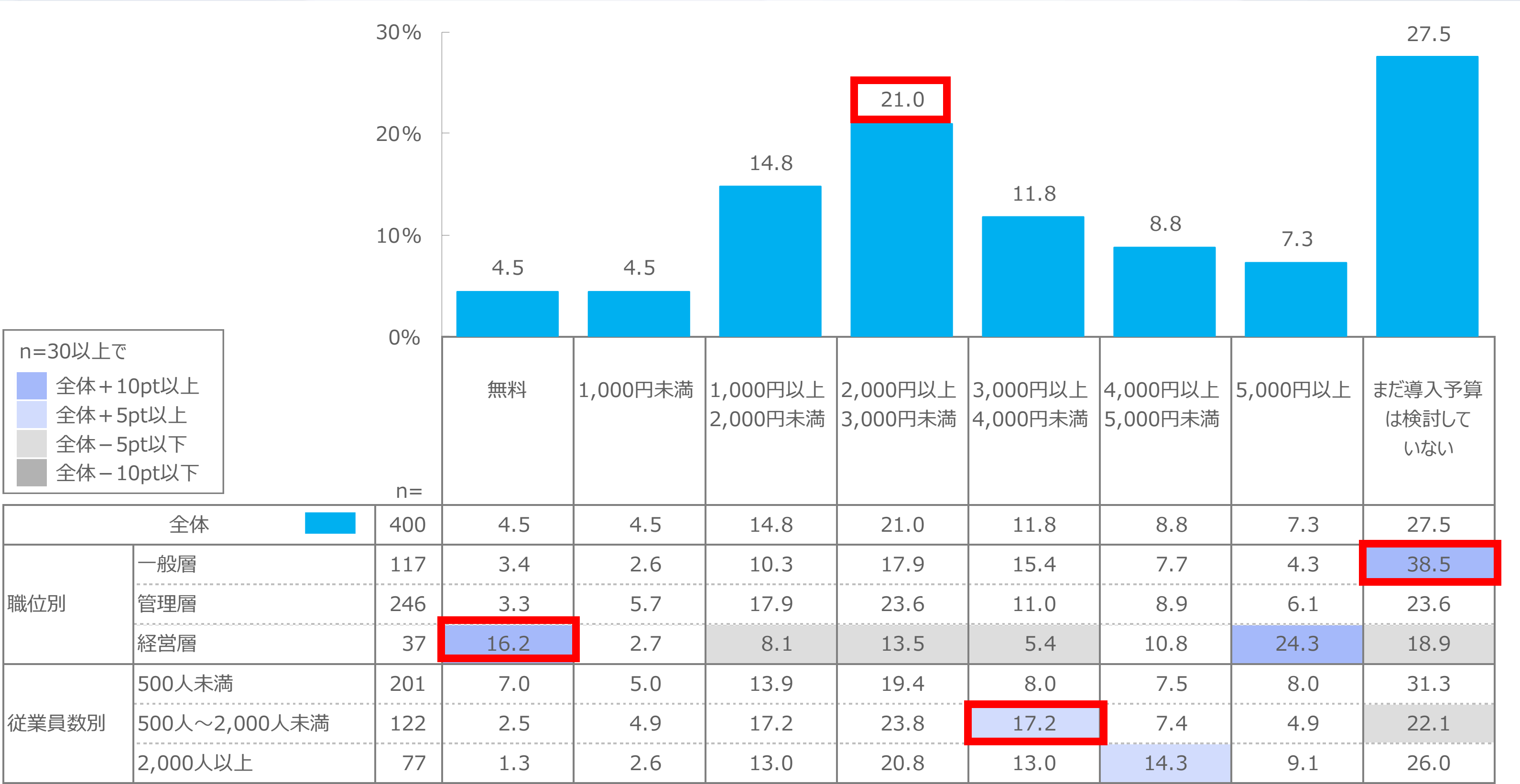
- 職位別の【一般層】では「1,000円以上2,000円未満」が28.6%でボリュームゾーン、対して【管理層】のボリュームゾーンは『2,000円～4,000円』。
- 従業員数別では、従業員数が多い層ほど予算が高くなる傾向がみられる。各層のボリュームゾーンは、【500人未満】では「1,000円以上2,000円未満」、【500人～2,000人未満】では『2,000円～4,000円』、【2,000人以上】では『3,000円～5,000円以上』と予算に幅がみられる。
- 利用頻度別が【毎日】の人のボリュームゾーンは「3,000円以上4,000円未満」で23.8%、加えて「5,000円以上」も高く21.3%。【1週間に1回程度】の人では『1,000円～3,000円』がボリュームゾーンであった。



導入予算（導入検討企業）

導入検討企業の導入関係者全体における生成AIの導入予算は、「2,000円以上3,000円未満」が21.0%でボリュームゾーン。一方、「まだ導入予算は検討していない」が約3割存在する。

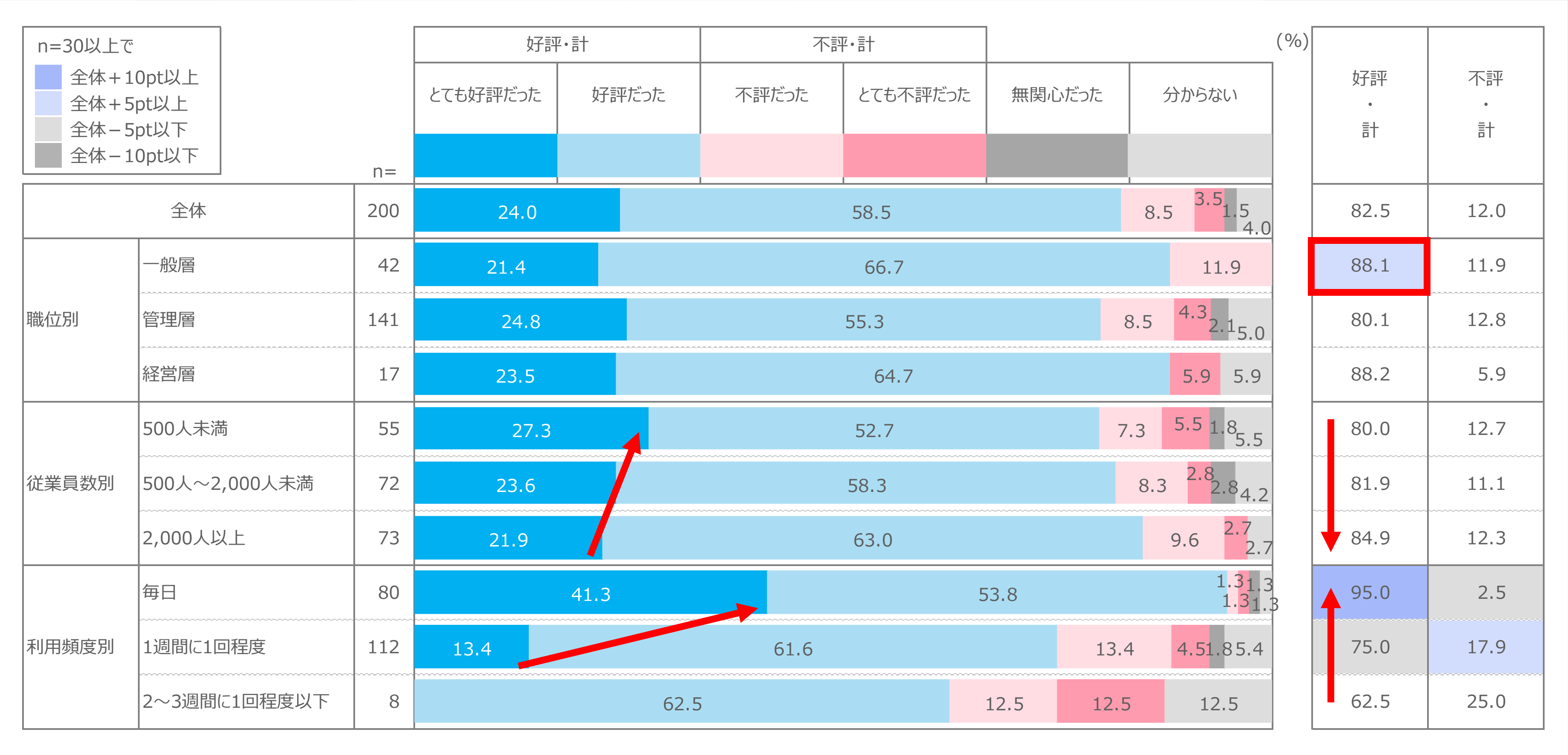
- 職位別の【一般層】【管理層】ともに「2,000円以上3,000円未満」がボリュームゾーンであるのに対し、【経営層】のボリュームゾーンは『5,000円以上』。また【経営層】では「無料」が16.2%と他の層より高いのが特徴的。「まだ導入予算は検討していない」をみると、【一般層】では38.5%と4割近く存在する。
- 従業員数別では、各層のボリュームゾーンはいずれも「2,000円以上3,000円未満」であった。【500人～2,000人未満】では「3,000円以上4,000円未満」が17.2%と他の層よりやや高く、【2,000人以上】では「4,000円以上5,000円未満」で、他の層より高くなっている。



導入後の社内の反応

導入・運用者全体における生成AI導入後の社内の反応は、「とても好評だった」24.0%+「好評だった」58.5%、合わせて82.5%が好評と回答。

- 職位別の【一般層】では『好評・計』が88.1%と約9割を占めるのに対し、【管理層】では80.1%と8ptの差がみられた。
- 従業員数別では、従業員数が少ない層ほど「とても好評だった」との高評価の割合が高くなっている。逆に『好評・計』でみると規模が大きくなるにつれて割合が高くなる。
- 利用頻度別が【毎日】の人では、「とても好評だった」との高評価が41.3%を占め、『好評・計』では95.0%に達した。対して【1週間に1回程度】の「とても好評だった」は13.4%と少なく、『好評・計』も75.0%であった。

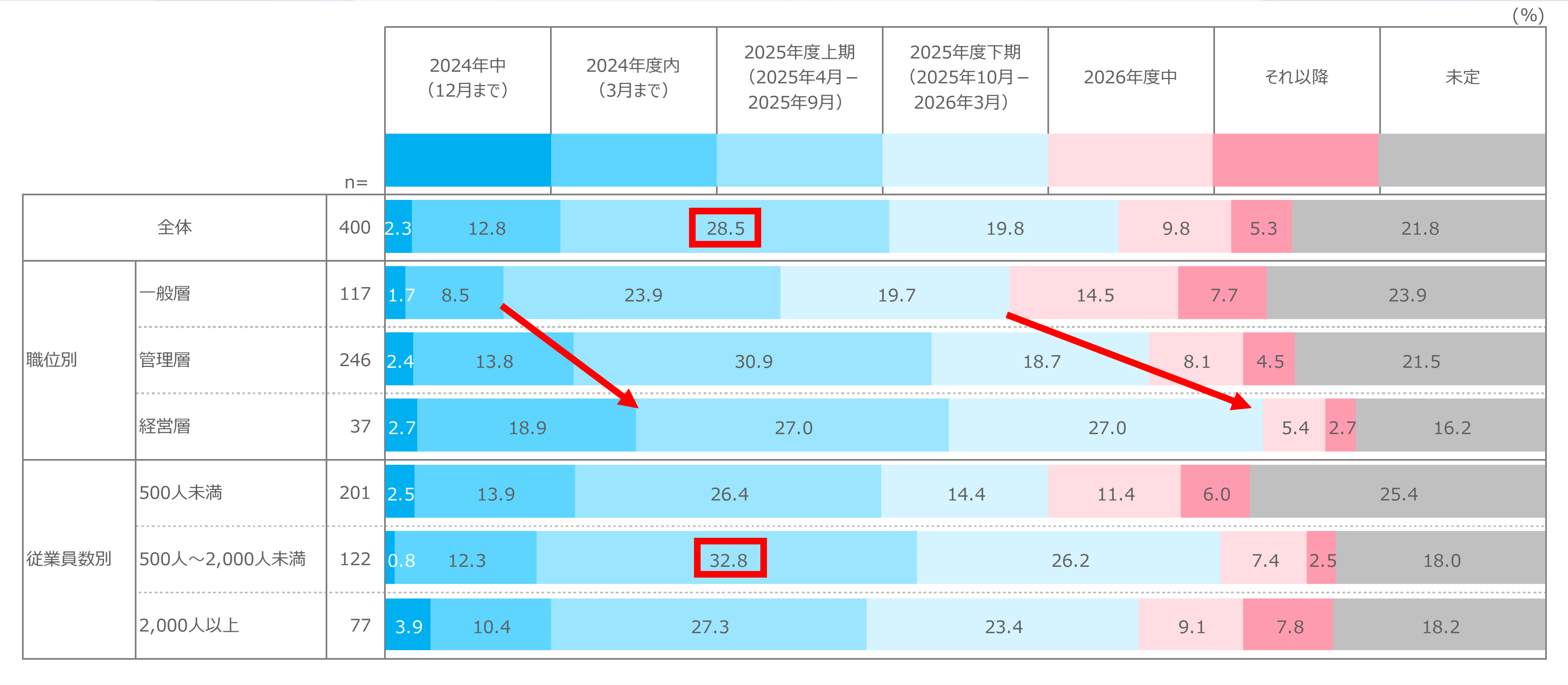


Q14 あなたの勤務先で、生成AIの導入をした後、社内ではどのような反応でしたか。(SA)

導入時期（導入検討企業）

導入検討企業の導入関与者全体における生成AIの導入時期は、「2025年度上期(2025年4月-2025年9月)」が28.5%でボリュームゾーン。2024年度中～2025年度下期まで合わせると、約6割が2025年度中に生成AIの導入を検討している。

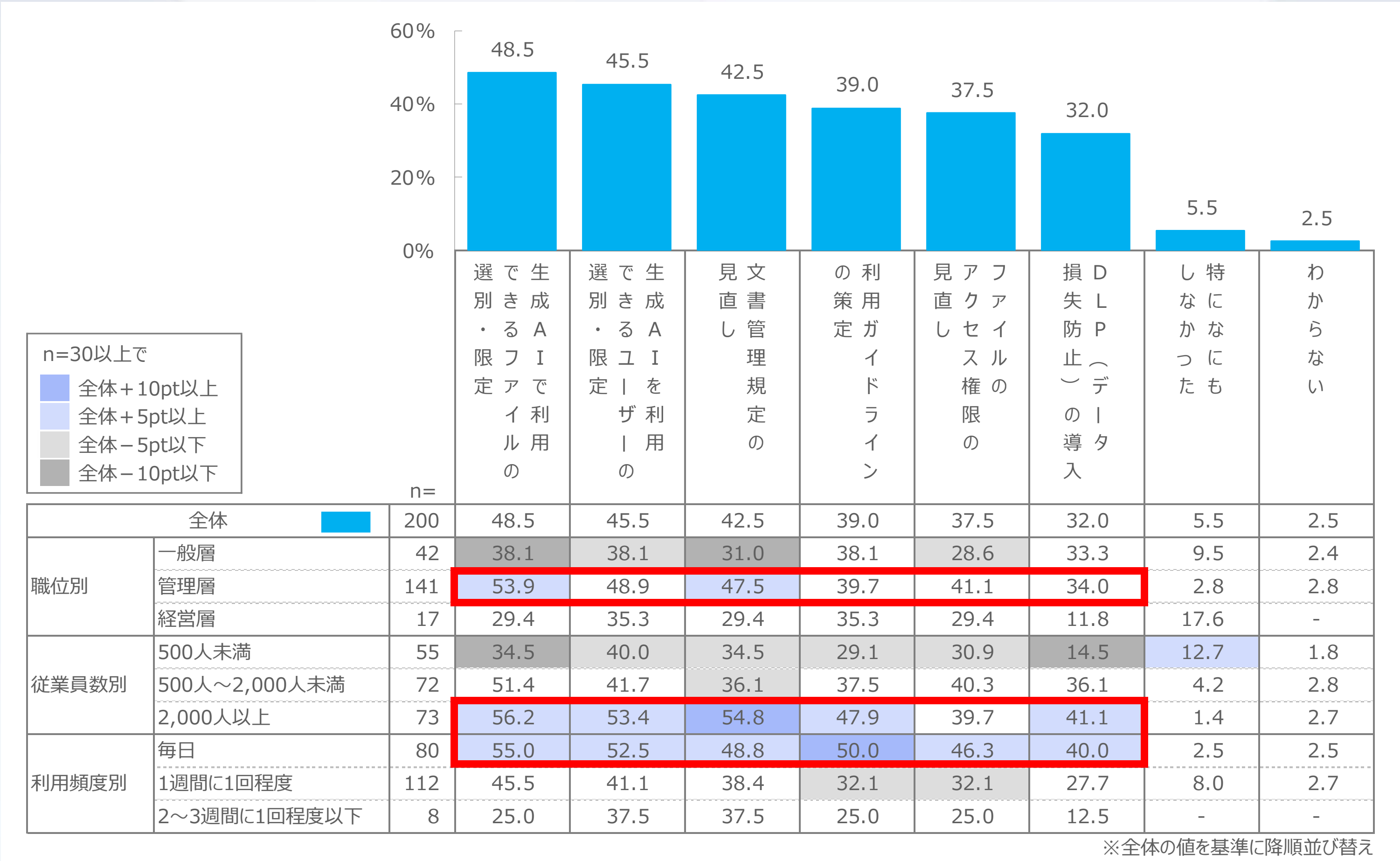
- 職位別でみると、職位が上がるにつれて導入時期を早めに検討していることがみてとれる。『2024年中(12月まで)～2024年度内(3月まで)』を合わせてみると、【一般層】では1割程度に対し、【経営層】では約2割。また『2024年中(12月まで)～2025年度下期(2026年3月まで)』を合わせてみると、【一般層】では5割に対し、【経営層】では7割を超える。
- 従業員数別では、各層のボリュームゾーンはいずれも「2025年度上期(2025年4月-2025年9月)」であった。【500人～2,000人未満】では2024年度内まででの導入は低いが、「2025年度上期(2025年4月-2025年9月)」では32.8%と高い。



生成AI導入時の実施事項

導入・運用者全体における生成AI導入時の実施事項は、「生成AIで利用できるファイルの選別・限定」が48.5%でトップ、次いで「生成AIを利用できるユーザーの選別・限定」が45.5%であった。

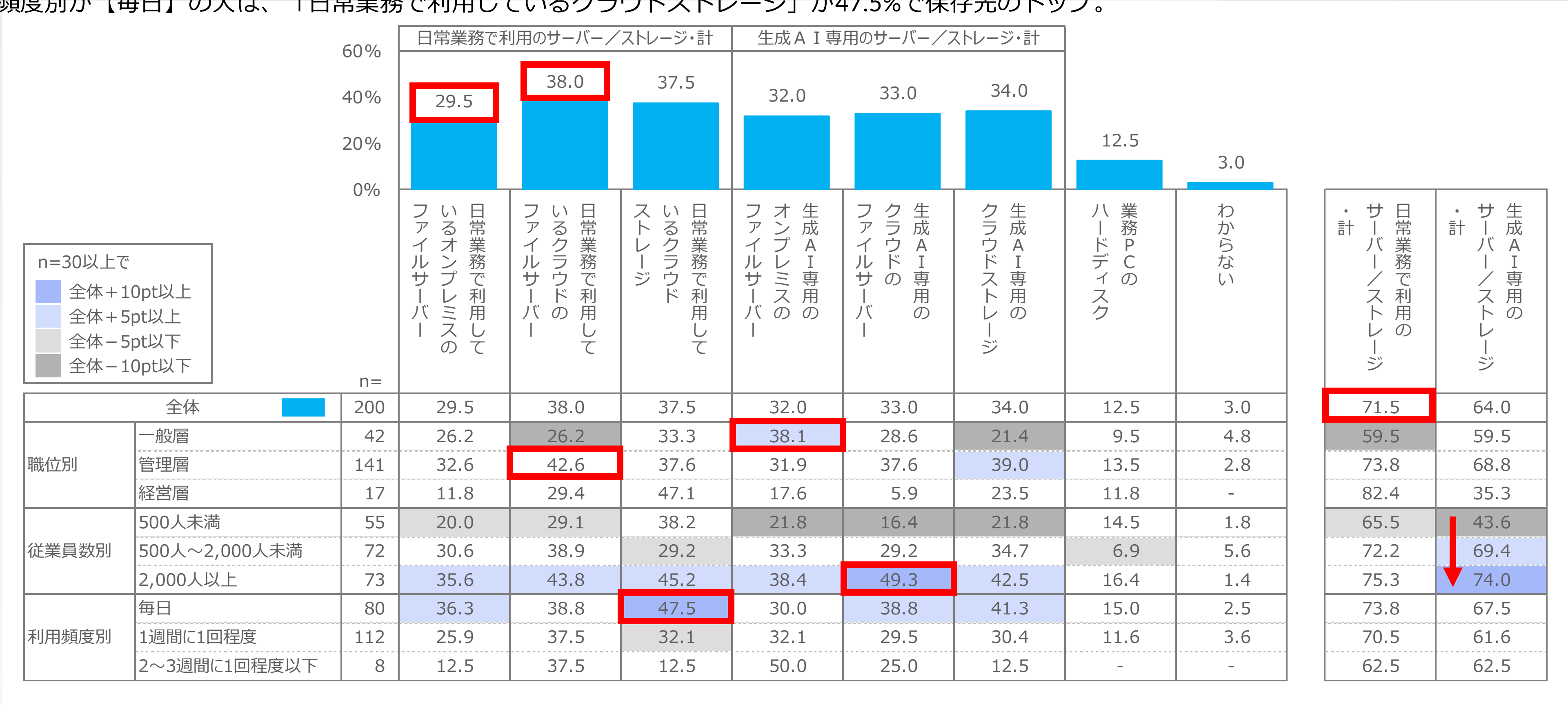
- 職位別の【管理層】では、全ての項目において他の層よりも高くなっているのがみてとれる。
- 従業員数別の【2,000人以上】では、ほとんどの項目において従業員数が少ない層よりも高くなっている。
- 利用頻度別が【毎日】の人においても全ての項目で高く、【1週間に1回程度】の人と比べて10pt～18ptほどの差がある。



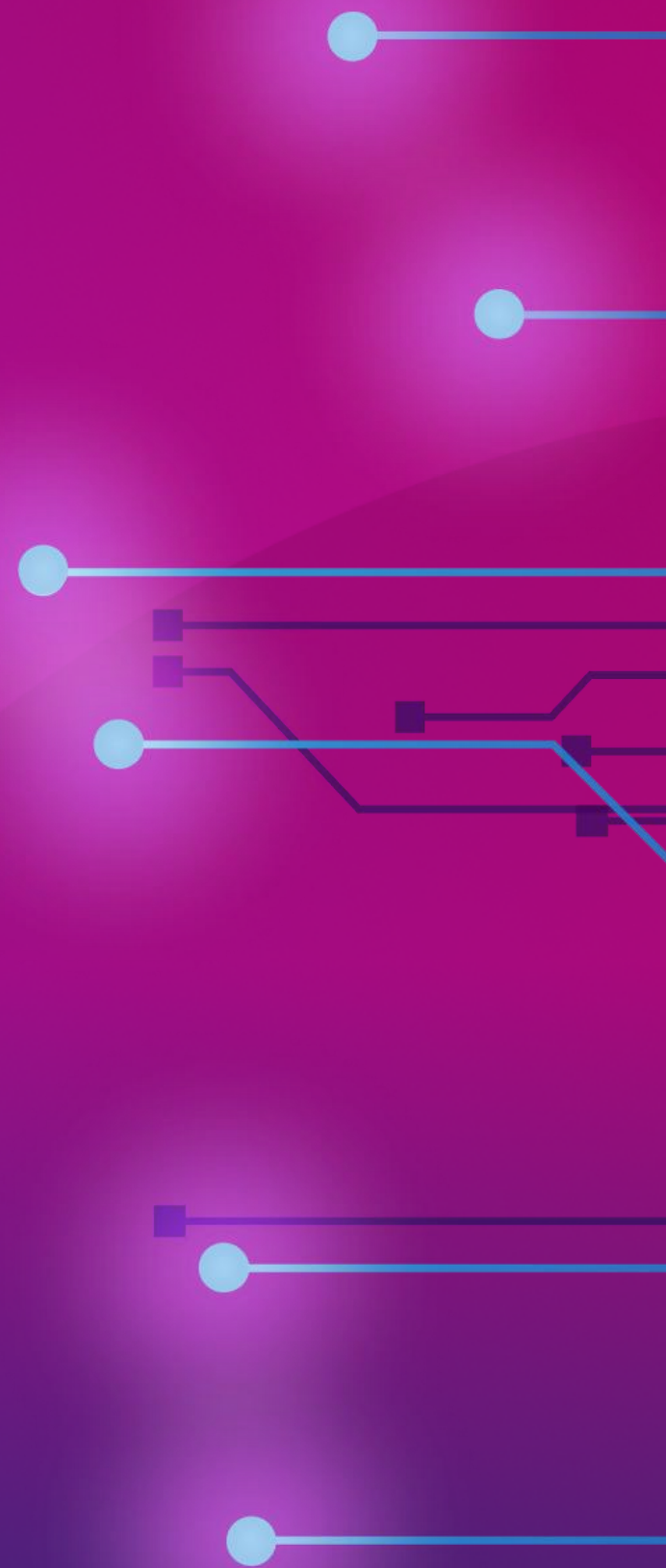
生成AIで利用するファイルの保存先

導入・運用者全体における生成AIで利用するファイルの保存先では、『日常業務で利用のサーバー/ストレージ・計』が『生成AI専用のサーバー/ストレージ・計』と比べ、利用率がやや高い。日常業務で利用のサーバーでは「クラウドのファイルサーバー」の方が「オンプレミスのファイルサーバー」よりも利用率が高い。

- 職位別の【一般層】では「生成AI専用のオンプレミスのファイルサーバー」が保存先のトップ。【管理層】は「日常業務で利用しているクラウドのファイルサーバー」がトップ。
- 従業員数別をみると、従業員数規模が大きくなるにつれて『生成AI専用のサーバー/ストレージ・計』の割合が高くなり、その差も大きくなる。また【2,000人以上】では、「生成AI専用のクラウドのファイルサーバー」が49.3%で保存先のトップで、他の層と比べて20pt以上高くなっている。
- 利用頻度別が【毎日】の人は、「日常業務で利用しているクラウドストレージ」が47.5%で保存先のトップ。



生成AIを活用するために 重要なセキュリティ

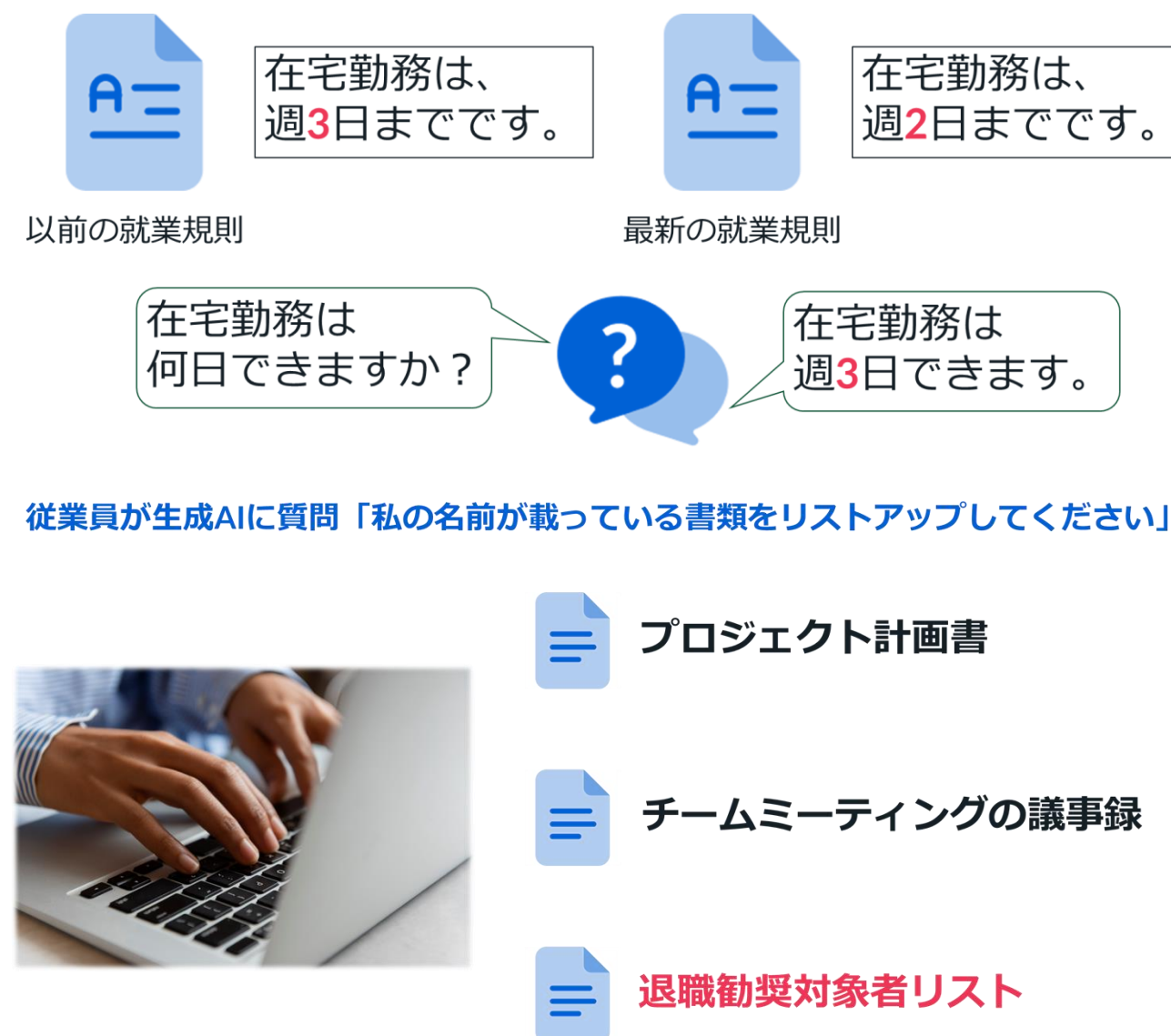


生成AI利用において、守るべきもの

業務データ・分析元データ

生成AIで利用するデータ（ファイル）は、**Single Source of Truth（信頼できる唯一の情報源）**である必要があります。生成AIが古い情報や書き掛けの情報を参照してしまうと、間違った回答を返す懸念が生じます。

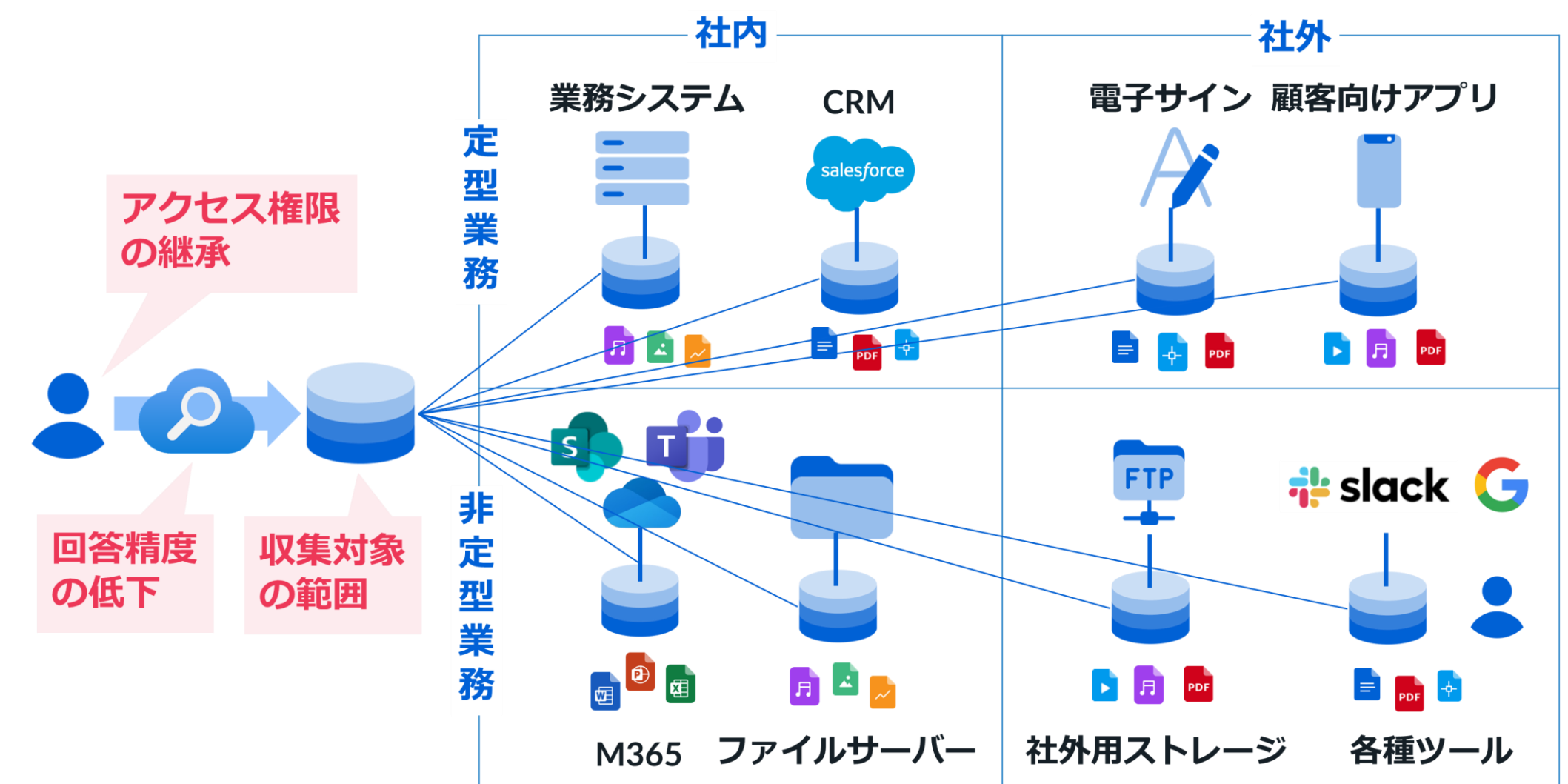
また、アクセス権を適切に設定し管理できていない場合、**過剰共有（オーバーシェアリング）**による情報漏洩のリスクが伴います。



分析のために集約したデータ

生成AIで利用しやすいように、データ（ファイル）をさまざまなシステムやファイルサーバーから生成AI専用ストレージにコピーして集約する場合、**アクセス権限の継承**、**収集対象の範囲**、ファイル重複による**回答精度の低下**の課題が生じます。

この課題を解消することが難しいため、全従業員が利用しても問題ない就業規則AIなどの展開に留まり、企業のナレッジを生成AIで十分に活用することができません。



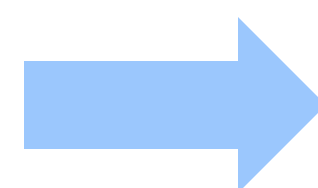
生成AI利用において、守るべきもの

プロンプトに入力されたデータ

プロンプトに入力されたデータも重要です。生成AIが利用するファイルだけでなく、ユーザーが入力したプロンプトにも、**機密情報**や**重要なノウハウ**、**ナレッジ**が含まれている可能性があります。

プロンプトが生成AIモデルのディスクやログに保存されたり、学習に利用された場合、生成AIモデルからの情報漏洩に繋がりがねません。

来年発表の新製品
「NovaRX」の
マーケティング戦
略を立案して



AIモデル



ログに記録



ディスクに保存

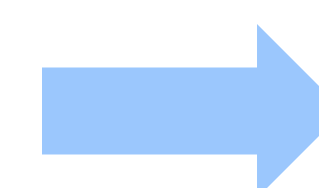
分析結果のデータ

生成AIが回答した分析結果や生成したコンテンツも、企業の重要な情報資産です。企業内のコンテンツと入力されたプロンプトを基に生成されているので、企業のノウハウやナレッジが詰め込まれています。

生成AIの情報源だけでなく、**生成AIが生成した情報**も守らなければ、企業の中で安全に生成AIを利用することはできません。



AIモデル



回答



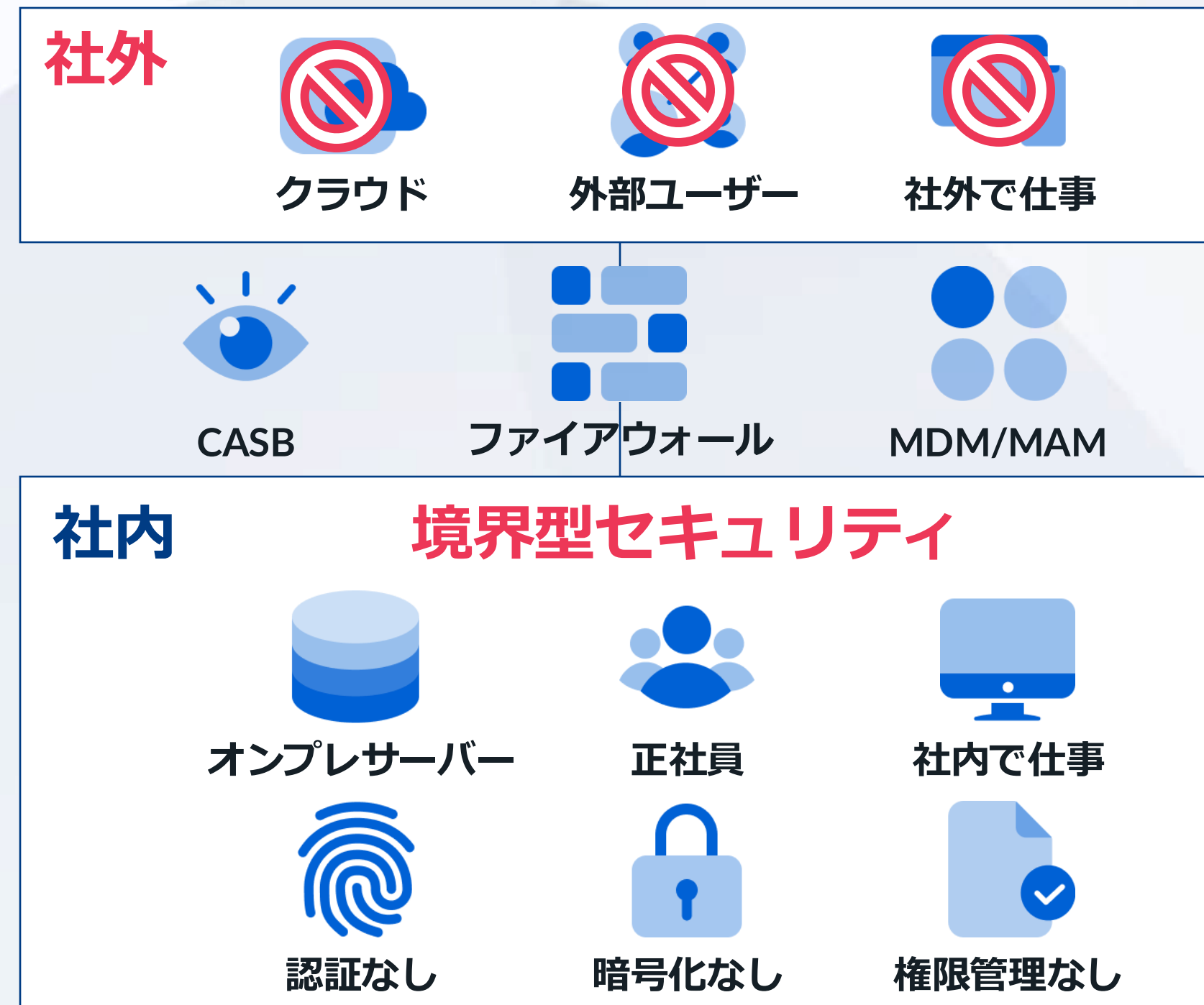
文書



画像

安全な生成AIには、「データセキュリティ」が必要

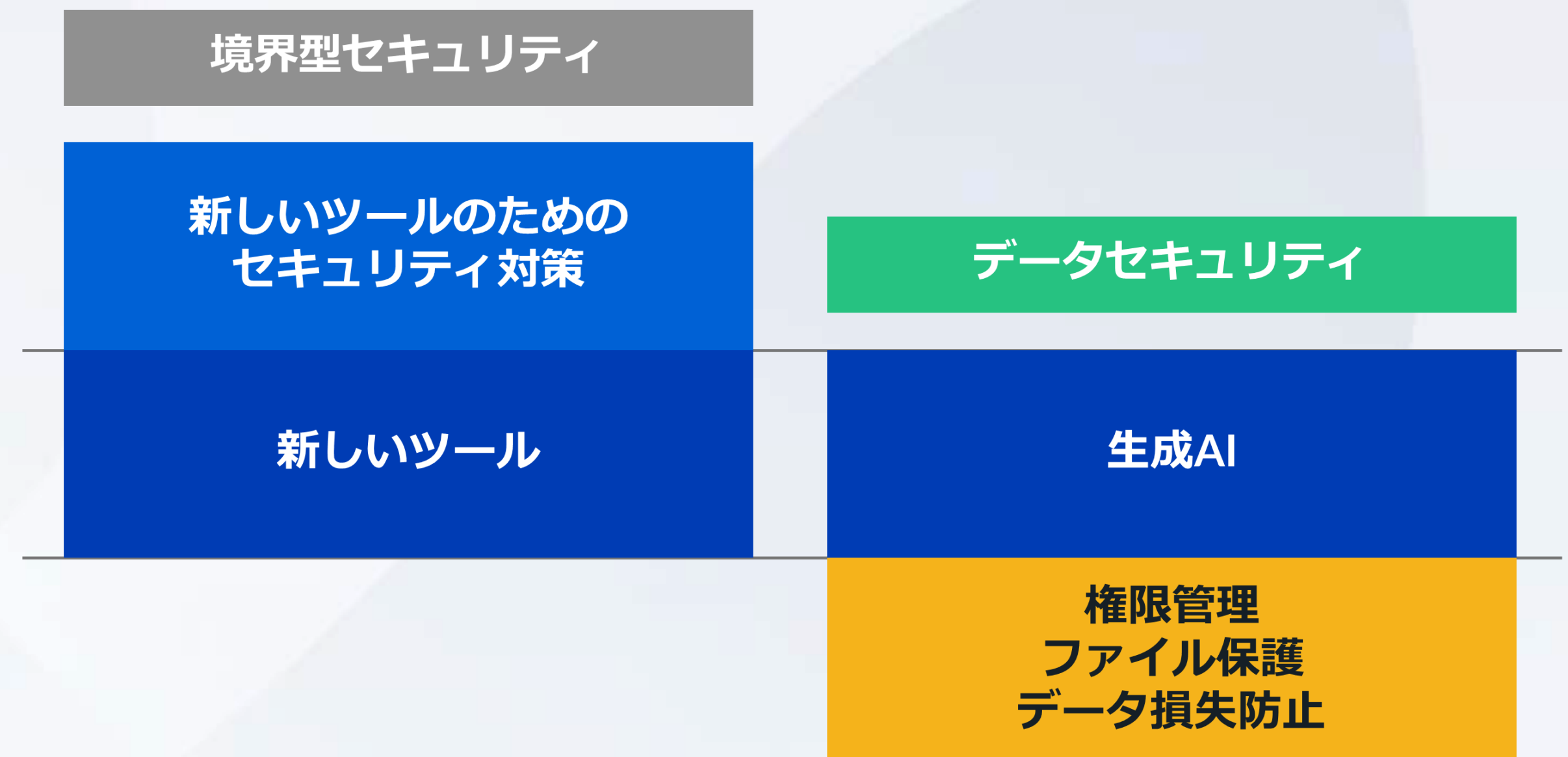
これまでのセキュリティの考えかた



これまでは、ユーザーとデータを**境界内**に閉じ込めておき、境界内では比較的自由にデータにアクセスできました。

セキュリティ対策は、新しいツールに合わせてセキュリティを**追加**することで対処できました。

生成AI利用に必要なセキュリティの考えかた



データ活用の高まりにより、データの**種類**が多くなり、**移動**も頻繁になり、ユーザーの数が**増加**し、ユーザーが**社内外**に拡大しています。

生成AIでデータを安全に活用するには、**ゼロトラスト**の考え方にに基づき、**ファイル単位**で保護する**データセキュリティの土台**がないと、セキュリティを維持することができません。

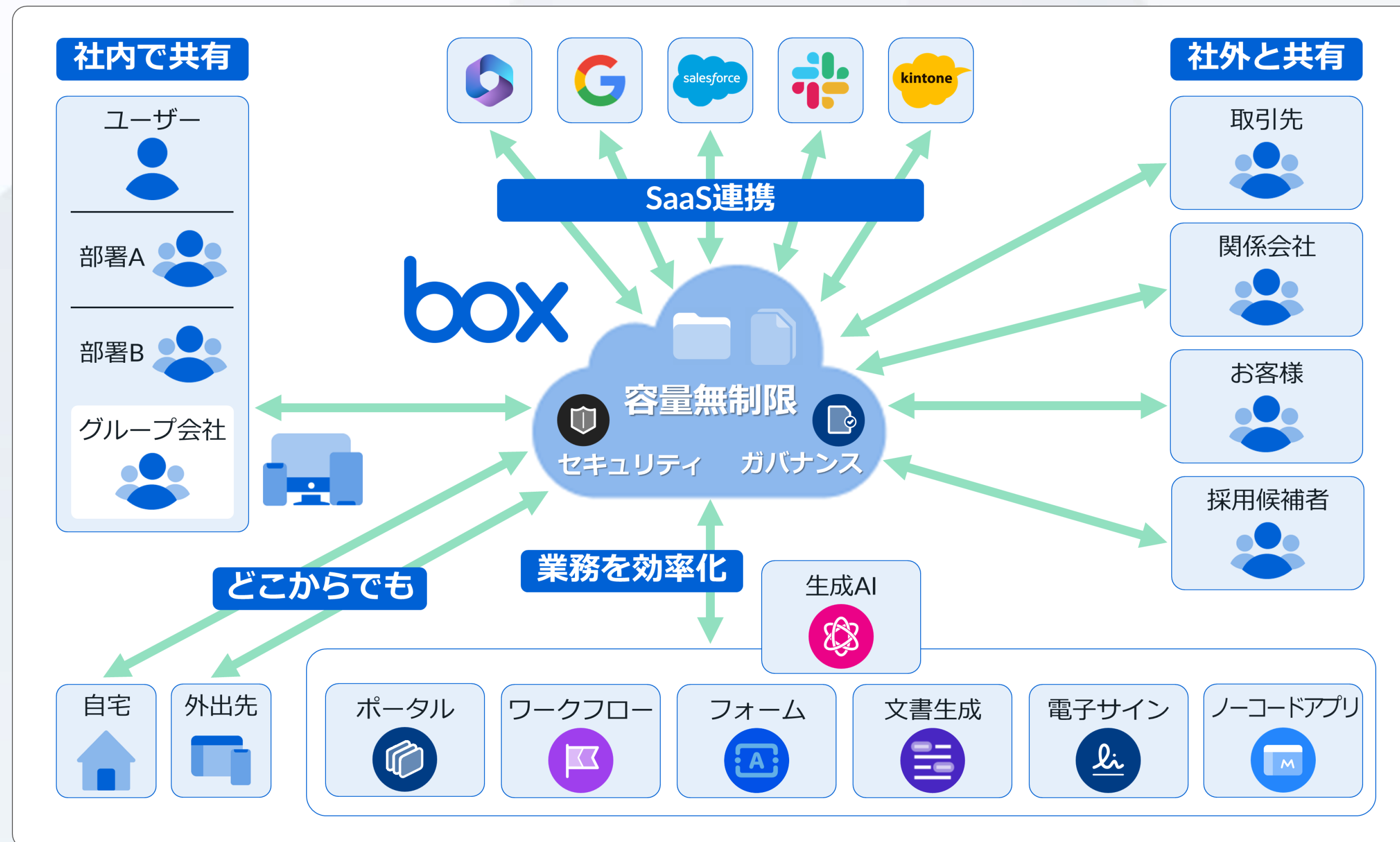


Box AI

安全で回答精度が高い生成AI



容量無制限で、コンテンツを一元管理できる インテリジェントコンテンツクラウド



容量無制限	自動バージョン管理
1,500以上の エコシステム連携	コラボレーション (社外との共同作業)
7段階の アクセス権限	共有リンク (社外とのファイル共有)
ウォーターフォール型 の権限継承	Box AI (生成AI)
セキュリティ、ガバナンス コンプライアンス機能	Box Hubs (ポータルサイト)

Boxは、**容量無制限**のクラウドストレージです。1,500以上のエコシステムと連携できるので、他のシステムやサービスのストレージ領域に保存しているファイルも含めて、社内の**ファイル**をBoxに**一元管理**できます。Boxに保存されたファイルは、Boxに組み込まれた**セキュリティ・ガバナンス・コンプライアンス機能**で保護されます。

Boxなら、社内のファイルを集約し、Single Source of Truthとして保存できるので、**データセキュリティの土台**ができあがります。



企業のコンテンツの価値を 生成AIで解き放つ

- Boxの先進的なセキュリティとプライバシーの基準を維持しながら、最先端のAIモデルを活用
- プラットフォームに依存しないアプローチで、Microsoft AzureやGoogleなどの主要なAIモデルをサポート
- 企業内でのBox AIの利用を完全に制御。管理コンソールでBox AIを有効化/無効化、アクセス権を持つユーザーグループを簡単に指定
- 明示的な許可なしにお客様のデータでAIモデルをトレーニングすることはありません

Box AIの詳細は「[Boxsquare](#)」をご覧ください。

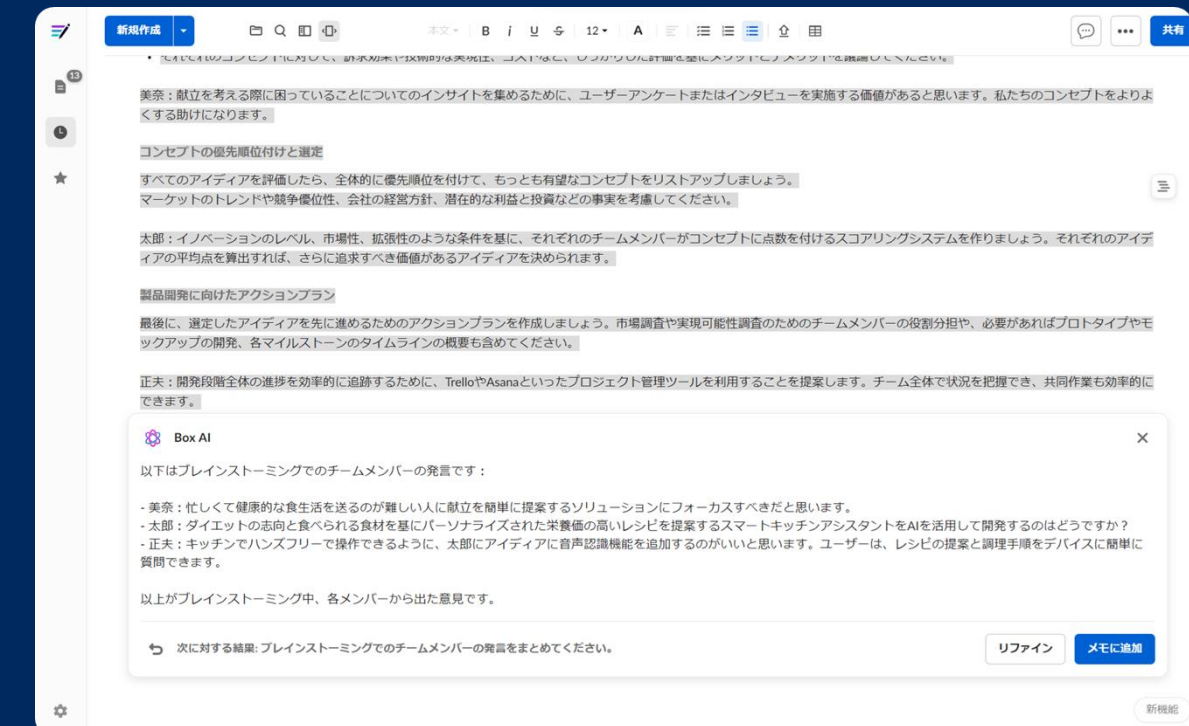
Box AI for Documents

Boxのファイルプレビュー機能は140種類以上の拡張子に対応しており、ファイルをダウンロードしたり、専用ソフトで開かなくても、ブラウザー画面でファイルの内容を確認できます。プレビュー画面からBox AIを呼び出して、内容の要約や分析、改善、重要なポイントの整理などを行うことができます。



Box AI for Notes

オンラインで共有して共同編集できるドキュメント作成ツール「Box Notes」。Box AI for Notesは、Box Notesに記載された内容をベースにコンテンツを作成したり、トーンや長さを変えたりできます。また、Box AIにイチからコンテンツの生成を依頼することもできます。回答は、ブラッシュアップしたり、Box Notesに追加できます。

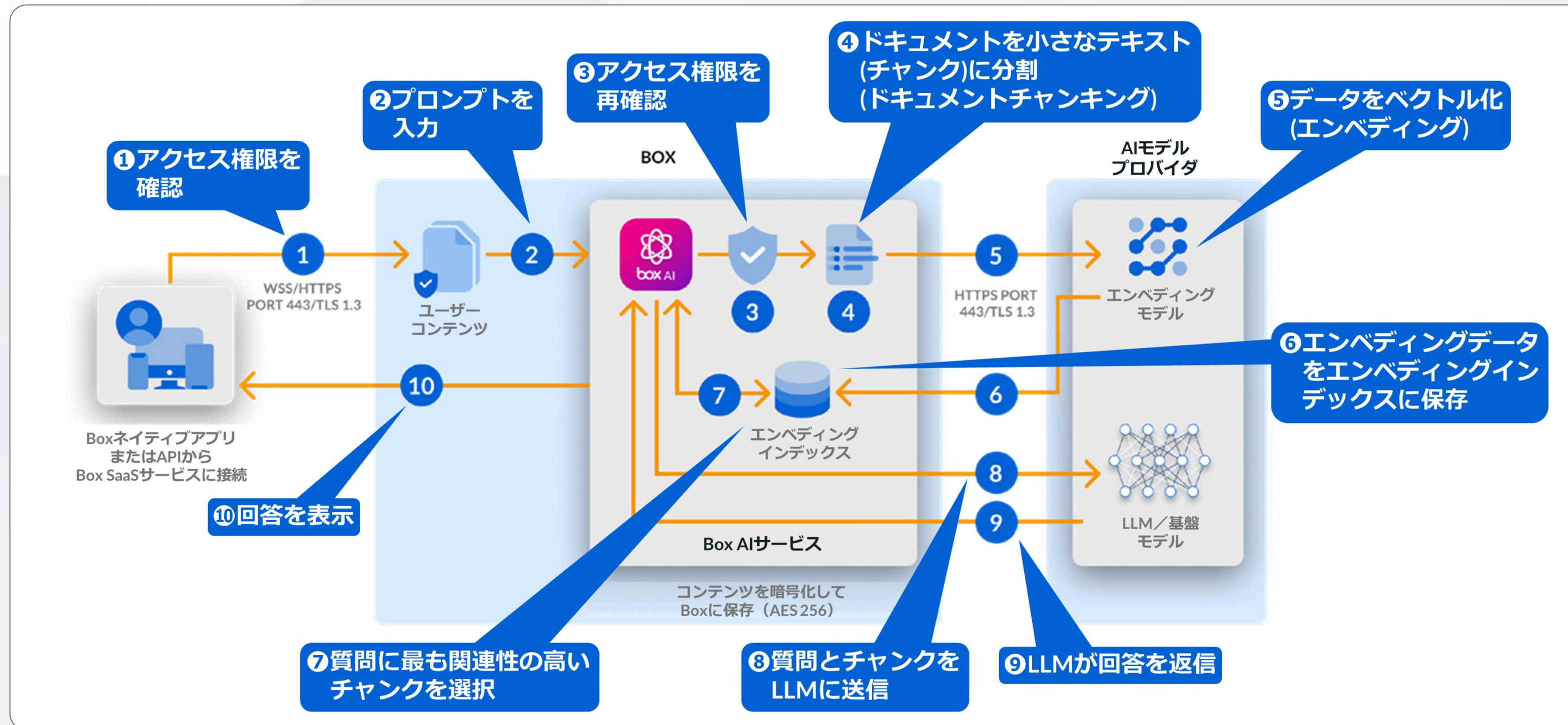


Box AI for Hubs

「Box Hubs」は、Boxに保存されているコンテンツを、整理して、簡単に公開できるポータルサイト機能。Box AI for Hubsは、Hubに公開されているすべてのコンテンツにBox AIで質問できます。複数のドキュメントから回答を得たり、要約、分析、比較ができます。Hub内の情報に基づいて、新しいコンテンツを生成することもできます。



セキュアRAG - 安全かつ回答精度が高めるアーキテクチャ



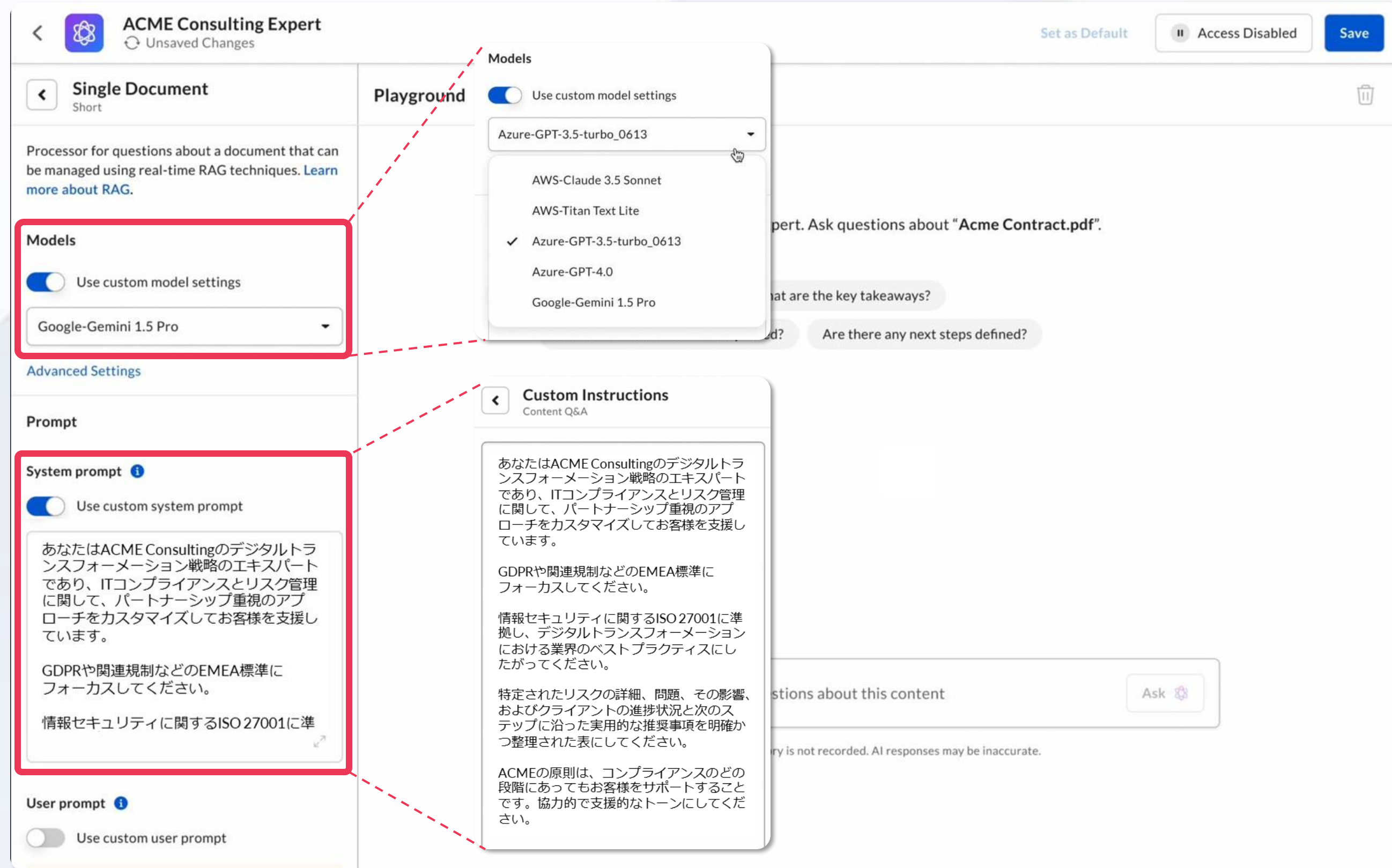
Box AIは、**適切なユーザーが適切なコンテンツに対してのみAIを利用**でき、AIはユーザーがアクセスできるコンテンツのみを参照するため、機密情報を不正アクセスから保護し、AIによるデータ漏洩のリスクを低減できます。

さらに、ドキュメントチャンキングとエンベディングを利用することで、AIモデルによる**ハルシネーションを抑制**し、適切な回答が得られるよう**プロンプトに関連情報を付与**します。

Box AIサービスおよびAIモデルプロバイダの処理はメモリ内で実行され、ディスクやログに保存されることはありません。処理が完了すると、メモリ内のデータ（プロンプト、チャンク、エンベディングデータ、回答）は消去されます。

Box AIは、企業が安心して利用できる**安全で回答精度の高い生成AIサービス**です。

Box AIエージェント - 企業独自のニーズ応じてカスタマイズ



【Box AI StudioでのBox AIエージェント設定手順】

1. より適切な回答が得られるようにプロンプトを補完
2. ユースケースに応じて最適なAIモデルを選択
3. 展開前に想定通り動作するかテスト
4. Box AIエージェントを使用するユーザーを設定

Box AI Studioは、管理者で設定します。
ユーザーは、ユースケースに合ったBox AIエージェントを選択して、簡単なプロンプトだけで、Box AIから最適な回答を得られます。ユーザーに**高度なプロンプトスキルは不要**です。

デフォルトの回答



カスタマイズしたBox AIエージェントの回答



ビジネスはそれぞれユニークです。AIソリューションも企業のニーズに応じてユニークであるべきです。

Box AI Studioを利用すれば、企業独自のニーズに合わせてカスタマイズした**Box AIエージェントを作成**できます。

プロンプトをカスタマイズし、AIモデルを選択することで、リアルタイムRAGテクノロジーを利用して、**ユースケースによりマッチした回答を得る**ことができます。

- Box AIの詳細は「[Boxsquare](#)」をご覧ください。

Thank you

